

## 資料紹介

## 民族まつり / マダンの系譜

## 【解説】

藤 井 幸之助

## 1. 民族まつり / マダンをとりまく概況

2008 年末の外国人登録者数は 221 万 7426 人となり、過去最高<sup>1)</sup>を更新した。日本の総人口の 1.74% を占める（入管法が改正された 1990 年の 107 万 5317 人と比べると 2 倍以上になっている）。国籍別では、中国（台湾・香港を含む）、韓国・朝鮮、ブラジル、フィリピン、ペルー、米国とつづく。中国籍者が 2007 年末にはじめて韓国・朝鮮籍者を追い越し、2008 年末では 29.6%（65 万 5377 人）、韓国・朝鮮籍者<sup>2)</sup>は 26.6%（58 万 9239 人）となった。在留資格においても一般永住者 49 万 2056 人（全体の 22.2%）が特別永住者 42 万 305 人（同 19.0%）を追い越している。

国籍・民族・言語をみても徐々にではあるが、日本社会はまちががなく多民族化・多文化化・多言語化が進んできている。それにつれ、ホスト社会である日本社会も労働・教育・福祉その他の場面で、従来どおりでは対応しきれず、変革を求められている。

ここでは在日朝鮮人を中心として取り組まれるようになった民族まつり / マダンについてとりあげる。

## 2. 民族まつり / マダンのはじめ

ふりかえってみれば、1983 年秋に、「ひとつになって育てよう！ 民族の文化を！ こころを！」を合言葉に、日本国内での朝鮮人の最大集住地域・大阪市生野区で第 1 回「生野民族文化祭」が開催された<sup>3)</sup>。在日朝鮮人にとって、朝鮮半島の分断状況を反映した既成の二大民族団体<sup>4)</sup>ではない、同胞の出会いの場としての意味合いは大きかった。また、そこには多くの日本人も観客として参加した。

これを民族まつり / マダン<sup>5)</sup>の嚆矢といわれることが多いが、戦（解放）後の在日朝鮮人の祭祀・農楽・民族教育・文化活動・民族運動などの営みの中にその萌芽がさまざまな形で潜在していたと考えることもできる。

たとえば、「生野民族文化祭」以前の 1977 年に大阪市東成区で在日朝鮮人 2 世が主体となっ

て開かれた「文化祭=在日2世にとっての民族文化とは=」や1979年に在日朝鮮人教育の一環としてはじめられた「子ども民族文化祭」(大阪市外国人教育研究協議会)や「ウリ高校生文化祭」((財)朝鮮奨学会)や1981年の「フェスティバル 韓国・朝鮮の歌と踊り」(現、「民族文化フェスティバル ウリカラゲモイム」八尾市)なども忘れてはならない。

また、在日朝鮮人の若者が朝鮮半島本国の一つである大韓民国に祖国留学し、学んだ、韓国における復興した伝統音楽や1970年代以降の民主化闘争の中ではぐくまれた民衆文化運動<sup>6)</sup>の影響も大きく受けている。

しかし、日本で行われている民族まつり/マダンは朝鮮半島本国(朝鮮民主主義人民共和国・大韓民国)でおこなわれている祭りともまたことなる。共和国では「アリラン祭」などに代表されるピョンヤンのメーデースタジアムを会場にマスケームのスタイルでおこなわれるものがあり、韓国では「祝祭(축제)」と総称される伝統的なものと新しいタイプのイベントが各地で行われている。韓国の状況も固定的ではない。

「1960年代以降の祝祭は、伝統的祝祭に対してそれとは別のさまざまな意味が重ねられ、複合多様、複雑多層的なスタイルが見られるといえよう。「-文化祭」「-芸術祭」「-イベント」といった言い方が新たに好んで用いられるようになったが、こうした現代型の祝祭は、都市、工場、企業、市場、学校等が主催し、居住地、観光地、公演会場、運動場、市街地などでの行事が大きくなったものだ。そして新しい生活方式により、親睦と親交、販売の促進と収益、創作と発表、広報とアピール、スポーツと娯楽を目的として行うものが大部分である。現代は伝統的な祝祭ではなく、イベントの時代だということが出来るわけだ」徐淵昊(2009:211)

「1970年代と1980年代は一部で伝統的な祝祭が復活された反面、都市農村混合祝祭やイベントが新たに作られた時代であった」徐淵昊(2009:217)

申英根(2009:19)によると、韓国では「1995年からはじまった地方自治制度の本格的な導入があ」って、「1990年代以降、地方自治体による新たな祭りやイベントの創出が盛ん」になり、「多くの自治体が初期投資の少なくすむ、祭りやイベントの開催によって地域活性化を図ろうとした。長い歴史を有する祭りを観光客向けに再構成したり、地域の歴史や文化と縁のないまったく新しい祭りを創出した」としている。

これらの動きとは関係なく、日本でも1990年代以降、在日朝鮮人が多く住む京阪神を中心に、「生野民族文化祭」を具体的なモデルとして、地元でも同様のものを開きたいということ<sup>7)</sup>、各地で民族まつり/マダンが開かれるようになった。

その後、さまざまな変遷があり、最近では、在日朝鮮人以外にブラジル・中国・ベトナム

などからの外国人市民の増加に伴い、出演者・出店者・観客を含めた参加者や内容も多民族・多文化共生社会をイメージしたものに変わりつつある。資料の本文を参照していただきたい。

ベトナム人による「祝八尾テト」やブラジル人による「ブラジル移民祭」「異文化交流 FESTA in TENPOZAN」などのように、特定のエスニックグループを対象としたまつりもおこなわれるようになってきた。「ふれあい芦屋マダン」のように、朝鮮関係のプログラムがほとんどなくなり、日本語よみかき教室に集うペルー人の多くがスタッフとして参加するようになった所もある（2009年度は「韓国併合」100年をテーマにしたプログラムが企画されている）。

地域的にみると、圧倒的に京阪神が多く、中でも兵庫県は小中高校の教員を中心とした在日朝鮮人・日本人協働型のものが多いのがわかる（後述の「民族まつり/マダンの類型」参照）。継続して、年に1回開かれるもののほかに、単発で行われるようなものもある。これらをふくめ、これまで筆者が確認したものだけでも、多めに見積もると60にのぼる。そして、現在もわずかではあるがふえつつある。

全体を眺めるリストの作成を試みた（後述の「民族まつり/マダン開催年表」「民族まつり/マダンの類型」）。不十分な点は多々あるが、ひとつのたたき台としてほしい。今後、詳細なデータをまとめたいと思う。民族まつり/マダンを見たり、どう展開していくかを考える参考にもなると思う。

### 3. 民族まつり/マダンをになう人々の座談会

これまでに民族まつり/マダンを担う人々による座談会が何度か開かれている。各団体が民族まつり/マダンを企画・運営するにあたっておこなっているさまざまな工夫を共有し、問題点や課題について話し合っている。

筆者が編集を担当していた『季刊 Sai』で、「未来に何を創造できるか？」〔vol.7（特集：在日の文化をつくる）（1993）〕では、6団体（「生野民族文化祭」「ワンコリアフェスティバル」「長田マダン」「ふれあい芦屋マダン」「みのおセツパラム」「東九条マダン」）の担い手に集まっていただき、特徴や企画・運営上の悩みなどを出し合った。

「全国津々浦々 同胞のすむ街と民族まつり 新春特集 担い手座談会」〔『統一日報』1994年1月1日付〕では6団体（「荒川ノリマダン」「三・一文化祭」「東九条マダン」「生野民族文化祭」「長田マダン」ほか）が参加した。

1996年には、長田マダンの担い手が集まっておこなわれた座談会がある（「座談会「それぞれのマダン」長田マダン実行委員会の七人が語ったそれぞれのマダンと自分史と…」〔『神戸から』1・17市民通信』no.11））。

また、大規模なものとしては、民族まつり/マダンの中の企画として、筆者が第7回「み

のおセッパラム」で企画した18団体に呼びかけ、15団体が参加した「全国マダン会議－21世紀のマダンづくりをどうするか」（1999年2月27日）がある。

「よびかけ文」は次の通り。

在日朝鮮人が多く住む京阪神では、1983年に始まった「生野民族文化祭」をかきりに、「民族の出会いの場」「朝鮮人と日本人の共生」をうたい、各地で手づくりのマダンが毎年開かれています。京阪神以外の地でも熱心に取り組まれています。それぞれ個人的なつながりのほかは、なかなか連携がもてていない現状です。

そこで「みのおセッパラム」が音頭取りをさせていただいて、一堂に会する場をもとうと企画しましたが、このわいわいトーク「全国マダン会議 21世紀のマダンづくりをどうするか」です（2回目・3回目のことはわかりませんが、まずは1度やってみようということですよびかけました）。

ほとんど手弁当のこの種の活動を今後どのように発展させていくかを、これまでの経験を交流することで考えていきたいと思えます。遠く、九州・中国・関東地方のマダンからの参加もお願いしています。一人でも多くの方々にご参加いただきますようお願いいたします。

【よびかけ対象】各地のマダン・一般市民・自治体関係者・マスコミ関係者ほか100名くらいを予定。

各団体にはあらかじめ、団体紹介のアンケート<sup>8)</sup>をおこない、当日配布の資料に掲載した。



【写真】「全国マダン会議」に参加した各地の民族まつり／マダンのメンバー（箕面市立メープルホール小ホール 1999年2月27日）

ここでは資料として、第7回「みのおセツパラム」で開かれた、わいわいトーク「全国マダン会議—21世紀のマダンをどうつくるのか—」を収録した<sup>9)</sup>。

参加団体は以下のとおりである。

「アリラン祭」(神奈川県川崎市)・「福山マダン」(広島県福山市)・「伊丹マダン」(兵庫県伊丹市)・「三・一文化祭」(福岡県福岡市)・「東九条マダン」(京都市南区)・「ならサンウリム」(奈良県天理市)・「ふれあい芦屋マダン」(兵庫県芦屋市)・「尼崎民族まつり」(兵庫県尼崎市)・「たからづか民族まつり」(兵庫県宝塚市)・「東はりまマダン」(兵庫県高砂市)・「大野遊祭」(大阪府高槻市)・「東大阪国際交流フェスティバル」(大阪府東大阪市)・「ワンコリアフェスティバル」(大阪市中央区)・「みのおセツパラム」(大阪府箕面市)・「金子まつり」(東京都調布市)

「全国マダン会議」には、残念ながら諸般の事情で、参加予定だった「生野民族文化祭」「長田マダン」「八尾国際交流野遊祭」のメンバーには参加してもらえなかったが、この規模での交流会は全国初といえよう。

「全国マダン会議」を契機にして、ますます交流していこうということであったが、2年後の2001年には主催した「みのおセツパラム」が終わり、2002年に「生野民族文化祭」、2003年に「長田マダン」も終了し、「福山マダン」「アリラン祭」は中断されている。これらからもわかるように、民族まつり/マダンを継続するためには並々ならぬ努力が必要である。

2005年には「ふれあい芦屋マダン」の企画で、筆者がコーディネーターとして呼ばれ、11団体が集まって「まちづくりマダン交流会」(「ふれあい芦屋マダン2005」2005年3月12日)が開かれた。報告書として、『阪神・淡路大震災10周年記念事業—ふれあい芦屋マダン2005報告集 ひと・まち・マダン・芦屋—多文化共生のまちづくり—』が出ている。

#### 4. 「民族まつり/マダン開催年表」

以下に、「民族まつり/マダン開始年表」を掲載する。継続して行われるものがある一方、単発のものも少なくない。特に、単発のものは漏れも多いと思う。今後補っていきたい。

##### 民族まつり/マダン開催年表

無印は単発、(～)印は現在に続く、(～?)印は継続が確認できていないもの。〔作成：藤井幸之助〕

開催	京 阪 神	関東・九州・中国・その他
1977	「文化祭=在日2世にとっての民族文化とは=」	

1979	「子ども民族音楽会」(～?)・「ウリ高校生文化祭」(～)	
1981	「フェスティバル韓国・朝鮮の歌と踊り」(～)〔現、「民族文化フェスティバルウリカラゲモイム」〕	
1983	「生野民族文化祭」(～2002)・「朝鮮文化に親しむ東大阪子どもの集い」(～)	
1985	「バリロフェスティバル民族・未来・創造」(～1990)〔現、「ワンコリアフェスティバル」〕	「在日同胞の明日へ向かう文化祭」(東京、～?)
1987	「神戸南京町春節祭」(～昭和天皇死亡・阪神淡路大震災時、中止)「大野遊祭 in 高槻」(～)	
1990	「長田マダン」(～2003)・「ワンコリアフェスティバル」(～)・「四天王寺ワッソ」(一時中断～)	「三・一文化祭」(福岡、～)・「荒川ノリマダン」(東京、～?)・「桜本ブンムルノリ」(川崎、～)
1991	「ふれあい芦屋マダン」(～)・「統一・広場・守部」(～92)・「八尾国際交流野遊祭」(～)・「みのおコリアン・フェスティバル」	
1992		「10月マダン」(東京)
1993	「みのおセツパラム」(～2001)・「尼崎民族まつり」(～)・「東九条マダン」(～)	
1994	「統一マダン生野」(～)・「セレブレーションコンサート ニッポンて何やねん?」・「ならサンウリム」(～)	「おおひん地区「春の祭」」(川崎、～)・「アヒラン祭」(川崎、～2003)
1995	「ふれあい芦屋マダン」、阪神淡路大震災で中止。	
1996	「東大阪国際交流フェスティバル」(～)・「まるごとアジアフェスティバル」・「伊丹マダン」(～)・「統一マダン神戸」(～)	
1997	「たからづか民族まつり」(～) 「長田マダン」、 <small>10)</small> 「神戸市指定地域無形民族文化財」に指定される。	「福山マダン」(福山、～?)・「対馬ちんぐ音楽祭」(長崎、～)
1998	「祝八尾テト」(～途中中断あり)・「東はりまマダン」(～)「Friendship Day in SANDA」(～)「神戸オリニマダン」(～)	「横浜アジアフェスティバル・東アジア特集」(横浜)「朝鮮文化とふれあうつどいフリーマーケット in 府中公園」(東京)
1999	「アジア元気まつり in 西宮」(～)・「建国学校乱場ナンジャン」(～)・「東アジア・フェスティバル」	
2001	「大阪ハナマトウリ」(～05までに3回)・「枚方・百済フェスティバル」(～)	
2002	「ワンコリア野遊祭」(～?)	
2003	「マダンの風は淡海から」(～)・「なかよし加古川ミニマダン」(～)・「韓祭」・「国際交流市民ネットまつり」	「ふれあいマダン in 東区」(札幌、～?)
2004	「ええやんか!おうみ多文化交流フェスティバル」(～)	
2005	「芝楽祝祭」(～2007)⇒「芝楽春祭」(～2008)・「泉南マダン」(～?)・「ゆにかる祭」(～)	
2006	「チョアヨ!コリアタウン共生まつり」(～)・「三田マダン」(～)・「東北アジアに平和を!ピースフェスティバル」(～)	
2007	「猪飼野おとなの文化祭」(～)	
2008	「ブラジル移民100周年祭」	
2009	「異文化交流 FESTA in TENPOZAN」	

## 5. 「民族まつり/マダンの類型」

次に、企画・運営の主体・テーマ・内容などの観点から、大雑把ではあるが分類した「民族まつり/マダンの類型」を掲載する。実際にはいくつかの要素が重なり合った複合的なものが多く、分類はむずかしい。一つの試みにとらえてほしい。

民族まつり/マダンの類型

〔作成：藤井幸之助〕

企画・運営の主体・テーマ・内容	民族まつり/マダン
在日朝鮮人主導型	「文化祭=在日2世にとっての民族文化とは=」「生野民族文化祭」「長田マダン」
在日朝鮮人教育型	「ウリ高校生文化祭」「民族文化フェスティバル ウリカラゲモイム」「朝鮮文化に親しむ東大阪子どもの集い」「民族文化にふれる集い」「神戸オリニマダン」「アリラン祭」ほか
在日朝鮮人・日本人協同型	「東九条マダン」「ふれあい芦屋マダン」「三・一文化祭」「東はりまマダン」ほか
自治体・市民協同人権啓発型	「みのおセツパラム」「伊丹マダン」「Friendship Day in SANDA」ほか
国際交流フェスティバル型	「東大阪国際交流フェスティバル」「八尾国際交流野遊祭」「インターピープルカーニバル」「ゆにかる祭」ほか
民族団体型	「統一マダン」「大阪ハナマトゥリ」「MINDAN FESTIVAL」「10月マダン」ほか
民族学校文化祭型	「朝高祝祭」「白頭学院建国学校文化祭」「金剛学園文化祭」「京都国際学園文化祭」ほか
企業主導型	「四天王寺ワッソ」
商店街主導型	「コリアタウン猪飼野まつり」「サクラモト プンムルノリ」「神戸南京町春節祭」「横浜中華街春節祭」ほか
観光誘致型	「厳原港まつり対馬アリラン祭」「長崎ランタンフェスティバル」「しものせき馬関まつり」ほか
特定エスニックグループ主導型	「祝八尾テト」(ベトナム人)・「ブラジル移民100周年祭」「異文化交流 FESTA in TENPOZAN」(ブラジル人)ほか

## おわりに

これまで民族まつり/マダンはざっと見て、30年近い歴史を積み重ねてきた。今後、民族まつり/マダンのネットワークづくりのために、人的交流や資料・記録の保存、インターネット・ホームページの活用、ノウハウの共有（民族まつり/マダンのつくり方）、データベース化（キャッチフレーズ・開催趣旨・参加人数・プログラム・内容・出店・財政ほか）など基礎的な作業をおこなう必要がある。また、各民族まつり/マダンの個別研究も進めていかなければならない。いずれも今後の課題としたい。

## 注

- 1) 1952年に外国人登録制度が始まってからはそうであってもいいが、1945年8月の日本の敗戦・朝鮮の解放の時点で、日本国籍を持つ朝鮮人で日本在住者が約210万人にのぼったことは記憶しておかなければならない。
- 2) 日本国籍取得者の増加と国際結婚によるダブルの子どもの国籍を日本にするケースが多いことが主な原因とみられる。
- 3) 2002年に第20回開催を最後に終了した。
- 4) 在日本朝鮮人総聯合会と在日本大韓国民団。
- 5) 本稿では「民族まつり/マダン」ということばを使っているが、定義はむずかしい。ここでは、1990年入管法改正以降の日系人増加により新たにはじまったまつりも含め、日本人以外のエスニックグループの担い手を含むまつりの総称として使う。「～マダン」の名称使用例は1990年4月の「長田マダン」から。
- 6) 沈雨晟(1978:121-122)で、韓国では朝鮮戦争を経て、1960年代から郷土文化に対する再起の機運が高まり、1970年代後半には100以上の多様な祝祭が再現されるにいったとある。
- 7) 朴実は「私たちが東九条で民族文化祭のようなことをやりたいと思ったのは、1983年10月に行われた第一回生野民族文化祭を見に行った時のことです。その時はすぐにでもできるような勢いで、実際、翌年の1984年と次の1985年には、九条オモニハッキョの文化祭を地域の公園で開催したり、児童館の子ども達によるマダン劇なども行いました。1986年秋には東九条を拠点に活動する民族民衆文化牌「ハンマダン」が結成され、東九条での民族文化祭は実現間近となりました。しかし、ことはそう簡単には行かず、実際「東九条マダン」という名で実現するには、生野から10年かかりました。」(朴実1999:204)と述べている。
- 8) ①正式名称(愛称あれば)、②テーマ・キャッチフレーズ、③ロゴ・オリジナルキャラクター・テーマソング、④趣旨文、⑤第1回(19年 月)第2回以降の開催時期、⑥主催・共催、⑦後援、⑧協賛、⑨入場料、⑩主な内容、⑪事務局連絡先住所・tel・fax・電子メール・ホームページ
- 9) 当初、1年以内に冊子にして発行する予定であったが、箕面市側から一方的ともいえる「みのおセツパラム」廃止通告があり、実行委員会での廃止の中止に対する取り組みで忙殺され、発行できずにいた。
- 10) 「長田マダン」自体は2003年に終了しているが、指定の解除はされていない。

《資料》

第7回「みのおセツバラム」わいわいトーク

「全国マダン会議－21世紀のマダンづくりをどうするか－」

1999年2月27日

箕面市立メイプルホール小ホール

(整理：藤井幸之助)

【第1部】－はじめての「全国マダン会議」－

◎司会(藤井幸之助) みなさん、こんにちは。さきほどは川西杏さんの熱演を楽しんでいただきました。

ただいまより第7回「みのおセツバラム99」の「わいわいトーク」の企画として、初めての試みですが、「全国マダン会議－21世紀のマダンづくりをどうするか－」と題して、討論会を開きたいと思います。会場には全国各地からマダンにたずさわるみなさんにお集まりいただきました。遠方からお越しいただきありがとうございました。

私たち「みのおセツバラム」が次の17団体に呼びかけて、今回初めての「全国マダン会議」が開催されます。

参加団体は「三・<sup>サミル</sup>一文化祭」(福岡市)・「福山マダン」(広島県福山市)・「アリラン祭」(神奈川県川崎市)・「東九条マダン」(京都市)・「奈良サンウリム」(奈良市)・「長田マダン」(神戸市)・「ふれあい芦屋マダン」(芦屋市)・「尼崎民族まつり」(尼崎市)・「伊丹マダン」(伊丹市)・「たからづか民族まつり」(宝塚市)・「東はりまマダン」(加古川市)・「生野民族文化祭」「ワンコリアフェスティバル」(大阪市)・「大野遊祭」(高槻市)・「八尾国際交流野遊祭」(八尾市)・「東大阪国際交流フェスティバル」(東大阪市)です。

京阪神を中心に関東・中国・九州地方など、各地からお越しいただいていますので、初めての顔合わせという方も多と思います。これから約3時間、4時半過ぎぐらいまで、マダンについて忌憚ない意見交換をしていきたいと思います。みなさん、それぞれのマダンの中心になって活躍されている方々です。今日は何でも言いたい放題です。いろんな思いが詰まっていると思いますが、1回の発言は手短かにして、できるだけ多くの人に発言していただきたいと思います。

1983年10月に「生野民族文化祭」が在日朝鮮人の集住地域である大阪市生野区で開かれました。これを皮切りに、「民族の出会いの場」「在日朝鮮人と日本人との共生」をうたったマダンが各地で開かれるようになりました。京阪神以外の地域でも熱心に取り組まれています。しかし、マダンの担い手それぞれは個人的なつながりはあったりはしますが、全体での連携が持っていないのが現状だと思います。そこで今回「みのおセツバラム」が音頭取りをさせていただいて、一同に会する場を持つと企画したのが、わいわいトーク「全国マダン会議－21世紀のマダンづくりをどうするか－」です。2回目以降については未定です。引き受けて下さるところがありましたらバトンタッチします。なければまた「みのおセツバラム」でさせていただきます。とにかく一度顔合わせをしようということです。今日一日を有意義に使いたいと思います。

みなさん、手弁当で活動してらっしゃいますが、今後どのように活動を展開していくかというようなことや経験を交流することで、分かち合いたいと思います。

順番として、遠方の方から5分以内で、各マダ

ンの紹介をいただき、一通り終わったところで、休憩をとります。そして、休憩後に意見交換をしたいと思います。

第1部は、17のマダンの紹介ですから、気をひきしめて聞かないと大変ですけれども、共通部分、それぞれの地域性が明らかになっていったらいいなと思います。

一番遠距離の「三・一文化祭」の李幸宏<sup>イヘングン</sup>さんはまだお越しでありませんで、神奈川県川崎市の「アリラン祭」の福長修さんからご報告いただきたいと思います。

#### 「アリラン祭」(神奈川県川崎市)

一教員を中心に実行委員会をつくって一

◎ 福長修 (「アリラン祭」) 神奈川県川崎から来ました福長修といいます。よろしく願いいたします。5分という限られた時間ですので、要点のみを紹介をさせていただきます。

川崎で行われている「アリラン祭」は今年で6回目を迎えるんですが、祭がおこなわれるにいたった経緯から話をさせていただきます。第1回が1994年2月です。毎年1月から3月の間に1回して、今年6回目になります。そもそもこれが始まったきっかけはというと、私は今、高校の教諭をしているんですけど、学校のある地域、とりわけ川崎市南部が、関東における在日韓国・朝鮮人の最も多住地域で、そこにある県立川崎高校・川崎南高校・大師高校の3校に、朝鮮問題研究会・朝鮮文化研究会等があって、在日と日本人の生徒を中心として活動をおこなっていました。

高校では2学期に文化祭がおこなわれるのが普通かと思いますが、活動の一環として、文化祭で各校それぞれに体験発表、農楽その他の踊りなど

をおこなってきました。

その中で、それぞれ別々にやるのではなくて、やはり場を広げるべきだという意見がでて、まずはこの3校が横につながろうという形ではじまりました。さらに3校以外にも、川崎でこの問題に関わっている教員たちが中心となって、合同のお祭りをやろうじゃないかということで始まりました。

どういう形でやるかですが、各高校でこの問題に関わる教員を中心に実行委員会をつくって、実施したものです。県との交渉等を含めて、最初から神奈川県や川崎市の教育委員会などが後援するという形で実施しました。

第1回は川崎南高校の体育館を借りておこなわれました。2回目も同じく川崎南高校を借りました。ただ、体育館というのは元々寒いところですが、1回目は2月に大雪が降って大変でした。関東地方はそんなにひどく降るところではないですけど、大雪の中でやったものですから、寒いものの、震えあがる中でやったのを今でも記憶しています。

そこから、もう少し広げていこうということですが、第3回からは川崎市立労働会館の1000名ぐらい入る大ホールを借りて、生徒が中心になって何をやるか決めてやることになりました。劇の中身についても、生徒自らが話し合って、基本的には生徒自らの思いを語るという形での現代劇というか、創造劇をはじめてやろうとしているところです。

第5回の今年は3月22日に開催します。生徒が作詞・作曲をして、歌を入れることになりました。さまざまな問題もありますが、いろんな団体が応援してくれています。川崎市の高校レベルで、

養護学校2校を含め、16校ありますが、今年からは校長会が入って、公認をとることができるようになりました。いいたいことはいっぱいありますが、時間ですので、この辺で終わらせていただきます。

◎司会 要領よくまとめていただいて、ありがとうございました。続いて、「福山マダン」の金涼一さんキムヤンイルからご報告いただきます。資料をお持ちでない方は、スタッフが配っていますのでお受け取りください。

### 「福山マダン」(広島県福山市)

ーみんなで祭りができたらいいなー

◎金涼一(「福山マダン」) 福山から来ました金涼一と申します。県立盲学校で教員やっております。よろしくお願ひします。

「福山マダン」をはじめたのは1997年からです。実際には昨年1998年に第1回目をおこなったところですが、福山では15年ぐらい前から、韓国・朝鮮人中・高生の集まりがあって、1984年に初めて文化公演らしきものをやったのがきっかけです。それ以後、毎年ではありませんが、文化公演を生徒中心でしていたんですが、どうしても演じる側と見る側にわけられてしまって、盛り上がりがちぐはぐになってしまうということがありました。見に来た人も楽しんで、出し物をする人も楽しんで、みんなで祭りができたらいいなというのがはじめたきっかけです。

福山は在日韓国・朝鮮人がそんなに多いところではありません。全体で1300人ぐらいで、密集地もなく、点在している地域です。そこで果してうまくできるかどうかという心配がありました。すでに各地でおこなわれていた「生野民族文化祭」

や「三・一文化祭」や「長田マダン」のようなものができるだろうかというのがあったんですが、1997年にはじめてやったときには、5、600人が参加してくれました。はじめてやった中では大成功だったと実行委員会では評価しています。

一昨年に続いて、昨年もおこないましたが、定期的には9月下旬、この頃は雨もわりと少ない、気候的にいいので、その日程以外では学校行事の関係もあってとりづらいということもあってそのように決めています。

ここに『去りがたきマダン』という冊子がありますが、その中に詳しく書いてあります。衣裳とかいろんな道具とか立看板とかいうのは基本的に手作りでおこない、そんなに予算ありませんので、舞踊や食べ物の指導なども、縁故を頼って、できるだけお金をかけないようにしています。

◎村上敏(「福山マダン」) 冊子を見ても知られるんですけども、参加者がただいるんじゃないなくて加わっていこうという形です。もうひとつ、会場は東高校ですけれど、生徒も多く在籍しておらず、1人・2人という状態です。そんな中で、組合と青年部に入ってもらって、テントを張ったり、草履をつくったり、幟をつくったり、一緒にやりました。2年目は自分たちの学校の生徒を参加させる取り組みをしようと、反省材料としてやりました。1年目はよくわからなかったんですが、毎年今頃、各学校で生徒や親たちと面談をするんですけど、今年は福山在住の約1割は来たのではないのでしょうか。触れあってという具合に推測していたんですが、まさにこっちは「福山マダン」に来た、連れて行こうとしたレポートがほとんどです。勝手にやめられないということです。それを受けて、いろんなところが自主的に

参加していこうということです。去年は青年部がドキュメンタリー映画『在日』(呉徳洙監督)を上映したり、きょう梁民基さんが会場においですけれど、梁さんを招いて講演会を開いたり、自分たちで意識を高めながら広めることをやってきました。

◎ 司 会 次に、「伊丹マダン」の方政雄さん、お願いします。配布資料に載せた『朝日新聞』の記事に方政雄さんの「行政側といいかたちで連携できたことの成果を報告したい」というコメントが載っています。

「伊丹マダン」(兵庫県伊丹市)

#### —多文化共生・交流を目的—

◎ 方政雄 (「伊丹マダン」) こんにちは、方政雄です。「伊丹マダン」は1996年からやって、今年4回目を迎えます。

マダンにはおそらく2つの大きな流れがあると思います。民族まつり的な要素と多文化共生、在日韓国・朝鮮人をはじめとする外国人市民と日本人市民の交流の要素です。「伊丹マダン」はどちらかという多文化共生・交流を目的とした要素が強いです。

マダンというと「生野民族文化祭」や「長田マダン」のように在日韓国・朝鮮人のエネルギーのほとばしるようなイメージがあります。伊丹は在日がそんなに多くなくて、はじめ話を持ち出したときに、あんなエネルギッシュなものができるかと不安でした。行政と市民がいっしょにやっていく「みのおセツパラム」、かたや在日韓国・朝鮮人が中心になってやる「長田マダン」「生野民族文化祭」があって、僕たちのマダンをどこに位置づけるかということでイメージしたのは「みのお

セツパラム」のような形でした。

1995年に阪神・淡路大震災があって、伊丹市内でも避難所となった公立中学校で在日韓国・朝鮮人と日本人が助け合ったという実績があります。伊丹市は1996年に「内なる国際化推進基本指針」を出して、「内なる国際化に関する施策」をやっています。そのなかの「交流事業」として「伊丹マダン」につながっていきます。伊丹市の方から、50万円を利用してマダンができないかという話がありました。50万円といたら個人では大金ですけど、3000人も集まるような集まりになってくると少ないです。しかし、悪い話じゃないから、ぜひ実現したいということで、知人を集めて、結果的には第1回の実行委員会に22名が集まりました。すべて伊丹市民で、在日が3分の1、あとは日本人で、実行委員会をつくり、手探りの状態です。これまで3回して、3000人規模の市民祭りになっています。

開催までには土壌がありました。10年ほど前から「サラムの会」という在日韓国・朝鮮人問題を集まって考える会とか、ハンゲル講座がありまして、そこに参加している人たちが中心になっています。みんな手弁当で、主婦や学生やサラリーマンなどの実行委員が頑張りました。ほかのマダンは教員が多いですけども、私こは普通の市民が、住民税を払いながらも一体どんなふう税金が使われているのかわからない。住民税の還元やしね、それは行政サービスやし、市民として当然受ける権利やというのを段々学んでいきます。お金と施設は行政です。50万円というのは市からするとたかだかの金額ですけど、3000人が集まって、人権啓発活動に使ったということで市のイメージがいい。

在日の方は私たちの身近な姿を見てもらう、やってもらう、お互いの利益が結び付いて、協力しながらきています。その中で、日程の問題があります。外国人市民と日本人市民が集える場が1日だけというのはあまりにも心許ないので、日常的に集いの場を持つと、「伊丹チャンゴ」という講習会を開きました。また、行政の「ウイークエンド事業」として、市内在住の小・中・高の子どもたちをハングル教室に集める。第2・第4土曜日に集めて、施設もお金も行政です。日本人が多いですが、保護者も連れて来て、日常会話を教えるというようなことをしています。その発表の場が「伊丹マダン」のオープニングでした。

◎ 司 会 今、福岡から李幸宏さんがいらっしゃいました。汗の乾かないうちに恐縮ですが、「三・一文化祭」の紹介をしてください。

### 「三・一文化祭」(福岡県福岡市)

—過去の歴史や精神を考えながらいこう—

◎ 李幸宏 (「三・一文化祭」) 遅れて申し訳ありません。李幸宏です。今年も1週間後に開催しますが、10回目になります。細々ながらもよく続いてきたという感じがします。

福岡県は全国でも在日韓国・朝鮮人が多い地域です。特に福岡市東区の港に近い地区、ここは1945年の解放直後、博多港から朝鮮に帰国する人たちがあふれていた時期があって、千代や馬出に集住地域が形成されました。指紋押捺拒否や無年金問題など、いろいろな課題をやっていました。福岡は在日が多いのに、文化的なイベントがないことに悩みながら、たまたまそういうのが得意な若手のメンバーがいたもんですから、そのメンバーを中心に、学校を基盤にしてやっていこう

ということで、お祭りの要素に学校の文化祭にも使えるような要素を混ぜた形でやっています。

当初からメンバーのこだわりは、三・一独立運動のように在日がばっ—と声を上げるような過去の歴史や精神を考えながらいこうということで、「三・一文化祭」と名づけました。

福岡から離れていますが、北九州で民団青年会の関わりで中心的な人がいて、「三・一文化祭」の始まる3~4年前に2度ほど祭りを開催したことがありました。

第1回は1990年、ちょうど10年前、教育会館という県の学校関係の会館でやりました。2回目もそうでしたが、3回目からは地域の学校でやっていこうということで、いろんな協力者をつくってふえてきたところで、千代と馬出の小学校で交互にやるように変わっています。7回目からは馬出小学校に定着しています。教師の協力も得て、主に体育館を使いながら、運動場側にも若干はみ出すというように運営しています。基本的には個人参加ですが、在日の教育を考えるような会もありますので、そういったグループも関わっています。行政の人・僧侶・神父やいろんな市民が関わっています。

内容的には2日にわけてやっています。文化祭というにはかなり幅広く、1日目はシンポジウムや映画上映会をやったり、サムルノリをやったり、やや硬めのをプレ企画みたいな形でやっています。これに100人から多いときは200人以上来るときもありました。体制がとれなくて1日だけの時が1・2回ありました。それ以外は2日体制でやって、2日目は各地のマダンとも共通していると思いますが、朝から夕方まで民族舞踊・サムルノリ・農楽とか民族芸能のセミプロやプロに来

ていただいて、いいものを子どもたちに見せると  
いう取り組みをしています。遊びのコーナーには  
力を入れていて、体験スペースとかユニノリとか  
を各コーナーに分散させていて、非常に好評です。  
毎年、かなりの子どもたちが訪れています。変わっ  
たところでは、韓国・朝鮮に関する基礎的なこと  
を遊びながら知ってもらおうと、「韓国・朝鮮ウ  
ルトラクイズ」というのをやっていて、最後まで  
残ったら賞品を差し上げます。これは盛り上がり  
ます。同時進行で、ブックフェアや食文化コー  
ナー、チマ・チョゴリ試着などを3～4年ぐら  
い前から取り組んでいますが、こういうコーナーは  
いつも盛況で、担当者のご飯も食べられないくら  
い忙しく、うれしい悲鳴を上げるような状況が続  
いています。

実行委員会は普通は10人いるかいないかなん  
ですけど、実際になると20人以上集まって、  
ばたばたと準備していくという慌ただしい体制で  
やっています。

5回目ぐらいいから名義だけですが、後援をいた  
だくようになりました。お金はまだもらっており  
ません。また、こういう機会が少ないこともあ  
って、振込用紙1枚でほんとカンパを送ってくださ  
る方がいます。500～600人の参加者のわりには、  
毎年、郵便振込で60～70万円ぐらいい集まります。  
あちこちでやり始めたら、こんなに集まらないか  
も知れません。今のところ少ないのでカンパを集  
めながら運営しています。

◎ 司 会 続いて、「東九条マダン」の渡辺毅さ  
んから報告していただきます。

「東九条マダン」(京都市南区)

—地域の祭りを目指して—

◎ 渡辺毅 (「東九条マダン」) こんにちは。「東  
九条マダン」事務局長の渡辺毅です。「東九条マ  
ダン」は1998年11月で6回目を迎えました。「み  
のおセッパラム」と一緒に、1993年から始まり  
ました。京都市南区東九条に公立小・中学校が4  
校ありますが、持ち回りで会場を使わせていただ  
いています。

東九条はJR京都駅の南側一帯に広がる地域で、  
東は鴨川あたりまで、西は東寺より少し東ぐら  
いです。特に東の方は、高い率で在日韓国・朝鮮人  
が居住しています。

他の地域で行われている民族文化祭に刺激を受  
けた在日の人たち、特に、それまでも文化運動を  
やっていたメンバーから、ぜひとも「東九条マダ  
ン」という形でやりたいという声が上がりました。  
同時に東九条はまちづくりの問題があって、たく  
さんの日本人が活動しています。そういう人たち  
と元々関係がありました。マダンをやりたいとい  
う在日のメンバーに、日本人のメンバーも同調す  
るような形で一緒にやっというかと1993年には  
じまりました。

先ほども伊丹の方でしたか、異文化交流と在日  
の祭りという、マダンには2つの流れがある  
ということをおっしゃいましたが、「東九条マダン」  
の場合は在日の祭りと異文化交流を車の両輪と考  
えて進めています。

異文化交流というときに、「東九条マダン」の  
場合は特に、地域の祭りということを目指して  
います。東九条は在日韓国・朝鮮人の多住地区だ  
ることと、日本人もたくさん住んでいるわけだ  
が、日本人と在日韓国・朝鮮人が一緒に住んで  
います。そのことをプラスにとらえ、町の特徴と考  
える。それを生かしたまちづくりの観点も踏まえ

て、共に楽しく生きていける姿を模索したいというのが「東九条マダン」の趣旨です。

それは簡単なことではなくて、古くから住んでいる日本人の中に、「急にいわれても困る」とか、「在日の人はあとから来たんじゃないか」とか、いろんなことをおっしゃる方がいます。そういった方々にも声をかけながら、模索をしながら、徐々にですが、地域に浸透しつつあると思います。

それから、この祭りをやる場合には、ほかの地域のみなさんと同様、プンムル隊などを結成して、プンムル演奏やマダン劇の上演をやったりしますが、広く東九条地域にビラを配って参加を呼びかけています。

特に保育園の職員たちが積極的に参加してくださっていますので、保護者も子どもと一緒に参加される方も多いです。一般に呼びかけに応じて下さる方もいらっしゃいます。プンムル隊も国籍に関わらず、いろんなメンバーでやっています。

趣旨文で4項目にまとめていますが、4番目に「様々な立場の人々が」と書いてあります。国籍だけではなくて、年齢の違いとか、障害を持っているかないかとか、いろんな立場の人々が参加します。祭りとして理屈がどうのということではなくて、とにかくそこに来て、異なった立場の人々と一緒にやるのが楽しいとか、一緒に暮らすのは実はすごくおもしろいことだ、いろいろな出会いもあるということに気づけるような祭りでありたいと思っています。今年も例年どおり11月3日前後に開催したいということで、現在、会場を貸してくださる学校と交渉しています。

最後に付け加えますと、ほかのマダンにはあるのかわからないんですが、幸之助さんはあまりなさそうだとおっしゃるので、「東九条マダン」に

は第1回目からテーマソングというがあります。いつも本番前日や当日に街頭宣伝車でテーマソングのテープを流しながら、東九条をぐるぐる回って、「きょう東九条マダンがどこそこ学校で何時からあります」と宣伝にも使っています。

◎司会 夕方に交流会を予定していますので、そちらでぜひ教えて下さい。「生野民族文化祭」は事前の打合せでは誰か可能な者が行くとうかがっています。お見えになりましたらお話をいただきます。続いて、「ならサンウリム」の<sup>キムヒョソン</sup>金孝誠さん、お願いします。

#### 「ならサンウリム」(奈良県天理市)

##### —民族差別集団暴行事件をきっかけに—

◎金孝誠(「ならサンウリム」) 奈良から来ました。「ならサンウリム」の金孝誠です。「サンウリム」とは「山びこ」という意味です。1993年に天理大学で在日朝鮮人学生に対する民族差別集団暴行事件がありました。この事件を受けて、天理で取り組みがありました。この事件の被害者本人が、こういう名前どうやってくれたのが一つの発端になりました。もう一つは、戦前、同志社大学で学んでいた<sup>ユンドンヂュ</sup>尹東柱という詩人がいましたけれど、この人の詩の中に、「サンウリム」というのがでできます。そこからも取って、「サンウリム」ということになりました。実行委員会形式でやっていますが、大体が教員の集まりですね。あとは市民団体、在日のオモニたちの集まりとか、新渡日の方も最近は奈良に住んでおられますので、そういう方たちを支援する会とか、いろんな在日外国人にかかわる団体が集まって実行委員会を毎月開催して、今年は祭りをどうしようかとやっています。

奈良県には在日外国人が1万1000人で、そのうち在日韓国・朝鮮人は7000人ちょっとという状況です。在日外国人の住んでいる範囲も結構広く、点在しています。

第1回は1994年で、天理高校で有名な天理市でやりました。施設の面とか、借りる備品の面も利点いろいろあって、天理でやっています。県内各地を回りたいという思いはあります。O-157で会場が使えなくて、開催できなかった年もあります。

何人かの方もいわれていましたが、民族文化祭としてやるのか、多文化共生の祭りにしていこうというのか、この2つはどこでも出てくると思います。在日問題を取り組むときいつも出てくることで、それが出てくるのは当たり前という気はするんですが、うちでもその辺のところはジレンマとかいうか、課題があるのは確かです。とりあえず多文化共生の場でやっています。

去年やったのは、各中学校とか、もちろんマダンの発表とか、出店・模擬店・展示です。いろいろな取り組みをしているんですが、中身は在日朝鮮人に関わるものだけではなく、最近増えてきたブラジル人や中国人のこともやっています。食べ物も中国やブラジルや朝鮮のものがあつたりという形です。去年はブラジルのサンバをみんなで踊りました。

◎司会 ありがとうございます。続いて、「長田マダン」ですが、事前の打合せでは、きょう、4月の開催に向けた会議があつて、一人も抜けられないということでした。行けたら行くとうかがっていました。いらっしやいましたら入っていただきます。

それでは次に、「ふれあい芦屋マダン」の辻本

久夫さんからご報告いただきます。

「ふれあい芦屋マダン」(兵庫県芦屋市)

—子たちの出会いをつくろう—

◎辻本久夫(「ふれあい芦屋マダン」) 辻本久夫です。「三・一文化祭」と一緒に、1991年から始めました。1995年1月17日の阪神・淡路大震災の被害でメチャクチャになって、芦屋の町は大変な状況になりました。1995年は何もできませんでした。この年は中断して、今年で8回目になります。市民レベルでやっています。学生・教員の参加は少ないです。当初の目的は、川崎で始まったように、私の高校の生徒たち、卒業する朝文研のOB・OGたちが活動する場をつくりたい、そして朝鮮学校へ行っている子どもたちや民間で舞踊を習っている小・中学生がいて、そういう子たちの出会いをつくろうとはじめました。

資金は保護者たちが1万円ずつ出してやりました。以来ずっと私たちは1万円を出してやっております。金がないから、広告を受けています。広告を取るためにきれいなパンフレットをつくります。80万円ぐらいかかっています。出場者にはお弁当を出すだけでお礼は何にもしていません。予算を使っているのはパンフレット・チラシだけです。それから障害者の方々や老人ホームにも参加チケット・おやつ券を配って来ていただいています。

エピソードをひとつご紹介します。芦屋の老人ホームですと日本人だと思われていたおばさんがいました。関西の出身の方で、その方がたまたま「芦屋マダン」に来られて、涙を流して見られて、そのあとキムチを食べ始めたんです。それまでずっと我慢しておられたんですね。そんなこ

とが人口9万人(震災後7万人)の小さな芦屋(コリアンは500人、震災後は100世帯400人)でありました。また、メンバーのほとんどは日本人ですが、「芦屋チャンゴ教室」ができて、母体になっています。

◎司会 続いて、「尼崎民族まつり」の李相根<sup>イサンゲン</sup>さん、お願いします。

#### 「尼崎民族まつり」(兵庫県尼崎市)

—朝鮮人密集地域の「のど自慢」みたいな形から—

◎李相根(「尼崎民族まつり」) 尼崎から来た李相根と申します。趣旨文は私が書きました。思いはここに入っています。

「尼崎民族まつり」の1回目は地域の「のど自慢」みたいな形で朝鮮人密集地域の守部地区で行われました。4回目から尼崎市役所に隣接した橋公園で行われるようになりました。実行委員会形式をとって、在日朝鮮人と日本人の市民、団体、市立尼崎高校の先生たちとやってきました。昨年・一昨年と私が実行委員長を引き受けました。一昨年は3000人、昨年は4000人ぐらい集まりました。本番当日一日で終わり、また春が来たら実行委員会を組んで、祭りの準備をする、そのような祭りです。「伊丹マダン」「長田マダン」「ふれあい芦屋マダン」で店を出すような形で協力関係を持っています。

◎司会 続いて、「たからづか民族まつり」の近藤富男さん、お願いします。

#### 「たからづか民族まつり」(兵庫県宝塚市)

—3つの流れ・思い・動きが合体して—

◎近藤富男(「たからづか民族まつり」) 「たからづか民族まつり」の近藤富男です。

宝塚では、いってみれば3つの流れ・思い・動きが合体してできたと思っています。

一つは私自身かなり前に「生野民族文化祭」に行ったことがあります。こういうのを是が非でも宝塚でやりたいとずっと思い続けてきたことと、宝塚で数年前からいくつかの団体(宝塚市教職員組合・市職員組合・「朝鮮問題を考える宝塚市民の会」「日本婦人会議宝塚支部」・韓国民団・朝鮮総聯)が合同で、在日に関わる施策について市に対して要求をしてきました。その中でこういうのをやったらどうだろうという話が出てきました。もう一つは、1995年の阪神・淡路大震災の年の夏に開催された全国在日朝鮮人教育研究協議会(全朝教)兵庫大会を機に、兵庫県在日外国人教育研究協議会(兵庫県外教)という教員の組織ができました。宝塚でも地区講座をしているわけですが、宝塚でも何かつくってこうと、こういう3つの流れが合体してできたと思っています。

「たからづか民族まつり」は、みなさんがやっておられることのミニチュア版というような感じで、参加人数もまだまだ数百名という小さな集まりですけれども、実行委員会に固定的なグループがたくさん参加しています。

最後にPRですが、今日ご参加のみなさんから提供されたいろんな情報の中に、メールアドレスとかホームページとかありましたが、「たからづか民族まつり」のホームページをおいおいつけていきますので、そこにアップしたいと思います。

◎司会 ありがたいですね。続いて、「東はりまマダン」の古田圭策さん、お願いします。

#### 「東はりまマダン」(兵庫県高砂市)

—多文化共生教育を広げたいという思いから—

◎ 古田圭策（「東はりまマダン」）「東はりまマダン」は今話が出た兵庫県外教のメンバーが中心になって1998年に第1回目を行いました。

東播磨は兵庫県の西部にあります。姫路や明石はよくご存知だと思うんですけど、その間に加古川と高砂があります。謡曲「高砂や〜」の発祥の地です。そこに神谷重章さんという高校の先生がおってです。20年前から彼が「何もない、やる教師がいない、人権文化不毛の地でやってきたい」といつもいっています。そんな高砂で多文化共生教育を広げたいという思いを持っておられたわけです。この方の流れと先ほどの芦屋の辻本さんの流れに付いていきながら、まさに始まろうとしているところです。

◎ 司 会 続いて、「大野遊祭」「みのおセッパラム」の政田浩江さん、お願いします。

#### 「大野遊祭」（大阪府高槻市）

—みんなで焼肉を食べながら交流します—

◎ 政田浩江（「大野遊祭」「みのおセッパラム」）

政田浩江と申します。ここ3年ほど「大野遊祭」の当日スタッフにも関わっています。

「大野遊祭」は大阪府の北部にある高槻市で行われている行事です。高槻は南北に長い都市ですが、南の方が平地、北の方が山間部になっています。山間部の方に在日韓国・朝鮮人の集住地域があって、1970年代に在日朝鮮人教育も盛んになってきました。そういう関係で、「大野遊祭」が始まりました。

中身ですが、ほかのマダンと同じく、韓国朝鮮に限らず最近では、中国・フィリピンも加わって、エイサーや中国の舞踊もやりました。それから、去年は沢智恵さん（シンガーソングライター）の

弾き語りとか、東京ビビンパクラブのライブとかしました。

午後は交流ということで、炭火で大焼肉大会をやっています。すごく好評で、みんなで焼肉を食べながら交流します。第2部のステージみたいな形で、在日の子どもたちとか、あと識字学級も参加して、受講生の歌とかをやっています。

◎ 司 会 続いて、「東大阪国際交流フェスティバル」の林二郎さん、お願いします。

#### 「東大阪国際交流フェスティバル」（大阪府東大阪市）

—市民レベルで祭りをやろう—

◎ 林二郎（「東大阪国際交流フェスティバル」）

東大阪市政職員組合の林二郎です。1996年から去年で3回目で、朝鮮語じゃなくて、「国際交流フェスティバル」というネーミングでやっています。実行委員会の構成団体に、朝鮮総聯と韓国民団に同時に入ってもらったのが特徴のひとつです。在日同胞社会の中で総聯・民団というのは押しも押されもしない団体だということで、そこに飛び込んで行って、私たち日本人が間に入ることによって、同席してもらいやすいわけです。

東大阪市は人口50万人の町で、2万人あまりの外国人がいます。東成区・生野区と隣接していて、朝鮮人が約2万人と中国人が約2000人住んでいます。主体となっているのはそういった方ですが、国際交流ですから、市内に近畿大学があって、チリ・フィリピン等15カ国からの留学生がいて舞台に立ってもらっています。

これまでも市内の学校の取り組みで、朝鮮文化に親しむとか、子どもの集いとかが、いろいろやられています。市民レベルで祭りをやろうということを最初にいだしたのは朝鮮人ですが、そのと

きに念を押しました。「国際交流ということでええなあ、朝鮮人ばかりじゃないぞ」。それならそれでいこう、ただ、やはり朝鮮人が中心になってやってくださいということでスタートしました。

5000～6000人ぐらいが一日中、会場の公園に集まって、楽しんでます。教職員組合がいいだしたことで、こんなに大勢参加するのは珍しいです。方針がしっかりしているからこんなふうには市民が集まると思います。ポイントは周辺の自治会100ほどの自治会長さんの家に1000円チケットをお土産に1軒1軒訪ね歩きます。それであまり苦労しなくても、いろんなことができます。お金がかかるばかりでしんどいことはしないほうがいい。基本になることをしっかりやります。

東大阪市は平和のシンボルの鳩が市章ですが、それでロゴマークをつくったり、祭りの旗も印刷したりもします。市議会で3回目にやっと正式に市で予算化をして、少ないですがやっております。

◎ 司 会 続いて、「ワンコリアフェスティバル」  
チョンガブス  
 の鄭甲寿さん、お願いします。

「ワンコリアフェスティバル」(大阪市)

—地域密着型ではないフェスティバル—

◎ 鄭甲寿 (「ワンコリアフェスティバル」)

今日は呼んでいただいたことを大変感謝しております。「みのおセツパラム」が中心になって、交流の場をつくってくれたことに敬意を表したいと思います。

「ワンコリアフェスティバル」は、地域密着型ではないという点で、おそらくここにいらっしゃるみなさんのマダンの中では性格が違うと思います。大阪にこだわりはあります。大阪を発祥の地

として、今は東京でもやっています。昨年からはニューヨークでもはじめました。近々中国でもやる準備もしています。

南北統一問題は、コリアンだけの問題ではなくて、世界につながる問題だという認識を持っています。今、世界には在外コリアン550万人が生きています。日本は60万人くらいで、そんなに多い方じゃない。日本は「帰化」(日本国籍取得)している方をあわせて100万人くらいだと思いますが、これに混血者を入れるとおそらく百何十万人は軽くいっているでしょう。アメリカでは150万人いますし、中国で200万人、ロシアにも40万人、世界中に550万人というコリアンがいて、海外コリアンと祖国南北のコリアンをつなぐお祭りになりたいというのが当初からの思いでした。統一というテーマのもとに、「ハナ」をキャッチフレーズでやっております。

出演者の常連の一人に喜納昌吉きなしょうきちさんがいますが、昌吉さんに「ハナ」ということばの意味をいいましたら、非常に喜んでくれました。「ハナ」とは「ひとつ」という意味ですが、ハナニム(天や神)という意味もあるんですね。そういう宇宙の原理を表すようなことばですよといいましたら、昌吉さんが沖縄にもこういうことばがある、アイヌにもある、全部似たような意味を持っているということでした。日本語でも「はなから始める」とか、「はなからわかってた」というように、「はな」は「一」からという意味なんでね。この東アジアで、「ハナ」という概念は非常に通じるものがあるんじゃないかということで、意気投合しまして、「ハナ」ということばを世界に広めようという野望のもとに進めています。

◎ 司 会 「八尾国際交流野遊祭」を担当されて

いるトッカビ子ども会はきょうの催しにスタッフ全員が参加されて、欠席のご連絡をいただいています。詳細は資料をご覧ください。最後ですが、「みのおセツパラム」の裴解子<sup>ベヘチヤ</sup>さんから報告をいただきます。

#### 「みのおセツパラム」(大阪府箕面市)

##### —市民と行政が一体となって—

◎裴解子(「みのおセツパラム」) みなさん、長い時間ありがとうございます。

「みのおセツパラム」は市民と行政の箕面市が一体となって、市が予算も会場も出し、人権推進課が事務局を担当しているという点で日本初の取り組みだと思えます。

箕面市は12万人の住民の中で在日外国人は1500人、うち在日韓国・朝鮮人が800人です。私たちが在日朝鮮人のようなオールドカマー、またそれから新しいものに関わって、古くからいる私たち自身の世界に関わることから学べるのがたくさんあります。「みのおセツパラム」は開催の半年前に実行委員会を結成して、毎月会議を開いています。ロゴもキャッチフレーズも内容も全部手作り、多くの市民に支えられてここまでやっています。

「みのおセツパラム」を通して、小さなことに気づいていくことで、日本が抱えているいろいろな問題を解決していけるんじゃないでしょうか。先日の講演会で池明観<sup>チミョングマン</sup>先生が「これからは市民の時代です。市民が動いていくんですよ」とおっしゃっていました。市民の小さな動きが点となり面となって変わっていくと思えます。

今後、いろんな形で連携を持てればと思います。みなさん、本当にいろんな苦勞をされている点が

おありでしょう。お金のこと、それから次々増えていく新しい外国人たちとどうセッションしていくのか、いろんな問題があると思います。同じような悩みを持っていると思いながら聞いていました。そういった意味でみなさんからいろんな意見・提案をいただきたいと思えます。

◎司会 これまで紹介された以外のマダン・民族文化祭からいらしている方はいらっしやいませんか。もしくはこれからつくるぞという方いらっしやいましたら、ご発言いただければと思いますが。いらっしやらないようなので、今から15分間休憩をとることにします。3時半から4時半まで、先ほどのみなさんの発言を受けて、自由な討論をしたいと思えます。わからないこととかいろいろあると思うんですが、ご質問やご意見をお出しいただければと思います。

会場に各マダンのパンフレットなどを展示していますので、是非そちらの方もご覧下さい。また、会議終了後、6時から交流会も予定しています。お時間のおありの方はご参集ください。では、これで第1部を終わります。

#### 【第2部】

◎司会 それでは「全国マダン会議—21世紀のマダン会議をどうするか—」第2部をはじめたいと思えます。どなたからでもご質問・ご意見をお願いします。全体的な感想とか印象でも構いません。

#### 「東九条マダン」—和太鼓&サムルノリの共演—

◎渡辺毅(「東九条マダン」) 「東九条マダン」の渡辺ですが、さっき言い忘れたことをまづいっ

て、それからみなさんにも問いかけたいと思います。

「東九条マダン」では、3年前から和太鼓&サムルノリの共演という出し物をやっていて、大変好評です。「東九条マダン」は11月に開催しますが、本番の2~3週間前に、京都駅の近くの広場でイベントとして和太鼓&サムルノリをやっていて、通りすがりの人にも非常に好評です。

共にということをはひとつの形に表したいということで始めました。回を追うごとにレベルもアップしていくし、音楽的にも非常に新しく、いいものができてきたと自負しています。ほかの地域で何かミックス、ミキシングというか、そういうことを通して、おもしろいことを考えておられるところがあれば参考にしたいと思います。

◎司会 もう一つ二つおうかがいします。話の中で思い出したというのでも結構です。

#### 一 滋賀でもマダンをやりたい一

◎北川 滋賀からまいりました北川と申します。滋賀では「在日外国人の教育を考える会滋賀」が4年前に発足して、その1年後、ハングルで共に集まろうと「ハングルモイジャ」という在日外国人保護者会をつくりました。

滋賀県には120万人の県民がいますが、約1パーセントが在日外国人、そのうちの半分前後が在日コリアンということで、まだ少数派です。少数ですが学校にいますので、子どもも保護者も、学期に1回でも集まってそれぞれの悩み、何かしゃべれることがないかということで、料理教室やチャング教室などの活動続けています。

滋賀でもマダンをやりたいという思いがあります。マダンを立ち上げるとき、学校の先生が中心

になってやるという話もありましたが、どういう形で呼びかけて、実行委員会をつくっていったのか、具体的なアドバイスなどをいただければと思います。

◎司会 どなたか先ほどの質問とかです。

#### 「東大阪交際交流フェスティバル」

一 「わたしの町はアジアの町、わたしの町は世界の町」というキャッチフレーズ一

◎林二郎（「東大阪国際交流フェスティバル」）

東大阪では和太鼓とサムルノリ、チャングとギターとでやってもらったりしたことがあります。和太鼓のグループは結構多いと思います。地域に知らないようなところが結構あって、東大阪でいいますと、文部省とか大阪府が進めているAET（Assistant English Teacher 英語指導助手）を市独自ですべての学校に入れています。そういう人の中には日本にいううちに日本文化を覚えておくと、和太鼓グループに参加している人がいます。一緒にステージに立ってもらって、親しんでいくという経験をしたことがあります。

僕たちのフェスティバルは「わたしの町はアジアの町、わたしの町は世界の町」というキャッチフレーズでやっています。最初違和感は持ったんですが、和太鼓に出てもらおうとか、日本舞踊で出してくれという人がいて、日本舞踊に出てもらうというのは本意じゃなかったんですけど、逆に朝鮮人側から、日本人も出てええという中で交流が進んでいくというのがありました。

◎司会 どなたからでもどうぞ。

「ふれあい芦屋マダン」一 主体をどうするか？一

◎辻本久夫（「ふれあい芦屋マダン」） 「ふれあ

い芦屋マダン」も当初3回ぐらいは韓国・朝鮮舞踊ばかりやったんです。そういう中、在日側から日本舞踊やインド舞踊や同じ住んでいる地域の4～5人の中国人にも出てもらおうということで、毎年小学校から出てもらっています。小学校2校からある時は花笠音頭、その前はエイサー、そういう形で何でも出てもらうという方向で運営しています。

もう一つ、うちの方でも主体をどうするかを考えています。1回目は私が実行委員長になりましたが、それ以降は全部在日と日本人の2人の代表を出しながら、必ず在日が前に出るように考えています。何といても日本人が多いですが、スタッフには在日朝鮮人を必ず入れる。入らないと調整できない部分ができるのではないかといいこともあります。

◎ 司 会 どうぞご自由に。

「東はりまマダン」

ーフリーマーケットを取り入れてー

◎ 古田圭策（「東はりまマダン」） 我々のところは、ミックス案は大体舞台ですね。太鼓とサムルノリに関しては、朝鮮学校の子どもたち出てもらったりしました。また、運営という観点から、当日、とにかく人に来てもらわないかんということで、フリーマーケットという形式をとりました。この地域では、フリースクールが盛んでして、フリースクールのスタッフとこの6年ぐらい、年2回フリマをしたんです。私はその校区の小学校に勤めてますので、かれらと一緒にフリマを手伝ってきたんですが、毎回500人ぐらい集まります。このフリマを合体せえへんかということで、11月3日にやっています。また11月15日もう1回

やってくれということで、フリマに来る人に呼びかけました。小学生に呼びかけると、今度は私の学校を主にして、いろんな学校の子どもたちも出店します。すると親や友だちが来るというふうに、口コミの部分もたくさんあって、とてもにぎやかになりました。お母さんと一緒に店を出したり、クラスの交流会したりとか、そういう意味では、運営上のミックスが「東はりまマダン」の特徴のひとつだと思います。

1・2回目は兵庫県外教の分団みたいな東播磨の実行委員会を中心に呼びかけてみました。それまで私たちもいろんな市民団体をやってましたんで、女性運動団体、フリースクール関係、職員組合、部落解放同盟、それぞれの担当者に直接あって、説明しました。もうひとつ、とにかくつながるところはできるだけつながろうということで、『神戸新聞』の記者もずっと来て、「東はりまマダン」について掲載してくれました。特にこれは成功させたいということで、実行委員会の動きとか、スポットを当てて5回シリーズで事前にやってくれたんです。そこで実行委員を募集すると、隣の若者が来てくれました。

◎ 山本（「東はりまマダン」） 「東はりまマダン」の山本と申します。私は『神戸新聞』の記事でこの祭りが開かれることを知りました。もともと韓国・朝鮮関連のものが好きで、地元で何か関わっていきたくて、ちょうどいい機会と思って、ボランティアで何か祭りにかかわりたいと申し出て、参加したんです。

◎ 古田圭策（「東はりまマダン」） 失敗を恐れずに、とにかくやってみようと思いを伝えていったということです。すると実行委員会には常時15名から20名が来てくれて。実際にはこの人数で

は足りないけれども、和気藹藹とやって、最初の1年目はいろいろと変遷がありました。実際開いてみると、たくさん陰の実行委員が増えました。まだ1回しか経験してませんが、そのときに声をかけて、何かしないかと、顔を売っておきました。

◎司会 マダンを企画運営する具体的なノウハウの話になってきましたね。

#### 「アリラン祭」

一何をやるかも基本的には全部生徒が決める一

◎福長修（「アリラン祭」） 僕たちは先ほどお話ししたように学校の中から出てきたものですから、依然として実行委員会のメンバーは学校が中心になっています。ただ、必ず生徒の方に独自の実行委員会があって、委員長には大体在日の子がなっています。

何をやるかも基本的には全部生徒が決める。劇をやるということについては、どうやるのかということもすべて生徒が決定し、こちらは黒子に徹します。教員の悪い癖で、すぐ口出ししようとするんだけど、そんなところでやっています。

一番大きな問題は、農楽の衣装なんかは、我々だけでやりきれないですから、「川崎市立ふれあい館」の人たちに手伝ってもらわなければならない部分があります。この前もちょっと話をしたときに、どういう形でやるのか、もっと早くから入らないとわからないということで、ちょっとまずいなということを今、思っています。

あと、先ほどから意見が出ていますが、マダンの中で、ニューカマーとどうやっていくかという問題があります。これまでの在日の問題と新しいニューカマーの問題をどうつなげていけるかとい

ろいろ議論をしています。結論的に言うと、今年も、やっぱり両方は一つにというわけにはいかなかったんですね。それを統一できなかったのは、どこかで焦点がぼけてしまうんじゃないかという恐れをどこかで抱いているからです。何でもかんでも一緒にやって、一体何やってるんだというようなことになるとまずいという思いがあります。なかなかうまくいかないというのが正直なところ

です。

ただし、今は中国からの生徒も参加して、一生懸命やっています。いろんなことを考えさせられますが、本格的な多文化共生の「アリラン祭」というところまで踏み込めるようにしたという感じ

です。

あと一つ、各マダンではそんなにお金使っているのかとちょっとびっくりしています。うちは川崎市から協賛金を10万円もらって、県はびた一文出しません。いつも金出せとっているんですが、全然出しません。特色ある異文化交流ということで、各学校で予算を取って、何とかしのいでいるという状態です。

◎司会 続いて、どなたか。

#### 「福山マダン」

一ごく自然にマダンの輪になることもねらい一

◎金涼一（「福山マダン」） 私たちも、在日朝鮮人の生徒たちが主催で、10年間、在日朝鮮人問題研究会というのをやっています。福山マダン実行委員会ということで、朝問研に集まって、朝鮮人が一緒になってやっていこうということでしています。

もうひとつ、福山行動協というのは、そこへ参加している子どもを利用しようということもあり

ます。文化講演会なんかして、指導を在日朝鮮人がやってきた中で、朝鮮ということばが出たときに一緒にうつむくしかなかったということを指導者にいわれました。

ところが文化講演などをする中で、時々、朝鮮人の子どもたちが自分のクラスの日本人の友だちを誘いにいくわけです。高校生の中ではっきりと自分が朝鮮人であると知られてしまうことへの恐れとかいろんなことがある中で、誘っていくわけです。見に来てくれるということは自分が韓国人・朝鮮人ということを明らかにする中で、そういう姿を見て、マイナスじゃなくて、むしろ自分の心を出していくというような部分は大切にしたいです。何年かの積み重ねの中で、自分の子どもたちだけの問題ではなく、親も参加していく場をつくりたいということでやっています。

今年も去年も宣伝はほとんどしなかったんですが、どこからか聞きつけてきて、日本の子どもも来て一緒に遊んでいます。2回目は日本人と朝鮮人が一緒になって。だから日本人の子どもたちもそういう輪に入って、ごく自然にマダンの輪になることもねらいです。もう少し時間がかかるでしょうが、自然な形で一緒に遊ぶ。とりわけお母さんやお祖母さんたちが楽しみにして、子どもや孫を連れてきます。そういうことがいいと思います。

#### 「伊丹マダン」

—マダンがふくらみをもっていくためには—  
◎方政雄（「伊丹マダン」） 基本的にはその地で生まれてマダンを大事にしていくのが、教育的なマダンもありますし、さっき言ったような民族的な出会いの場を提供するマダンもあります。今回、

共生的なマダンもありますけれども、「伊丹マダン」の場合は市民祭りですので、義務感だけでも疲れるから、とにかく楽しくやろうというのが僕たちの思いです。

多文化共生ということですが、実態は在日韓国・朝鮮人が中心です。これからマダンがふくらみをもっていくためには、韓国・朝鮮の中心としながらも、他の外国のことも入れていく。実行委員会の中でも外国人は朝鮮人ばかりやけれども、できたらいろんな国の人も入ってもらい、意見を聞きながら続けていくというふうに僕は思います。

マダンを通して何ができるのか。せめて伊丹市内の外国人の日常生活、日常の歌・踊りなどを市民に紹介する。うれしかったのは、サムルノリなど、日本の子どもは初めて聞くわけでしょう。音・リズム・メロディー、どこの国の楽器かということを超えて素晴らしいという形で、サムルノリを見えています。一緒に住んでいる外国人と共有し合う、それができたら十分だし、もっと深めていったらと。

◎司会 まだご発言をされてない方どうぞ。

#### 「東九条マダン」

—もっとレベルを上げることも必要—

◎梁民基（「東九条マダン」） 先ほど、朝鮮の音楽と和太鼓と一緒にやるという方法がありましたけれども、安易に和太鼓とチャングを組んでやる人もいまして、ぱっときて演奏やりましょうみたいなことはできっこないですね。「東九条マダン」のときには、最初の何回かは一緒にやらなかったです。まずは別々にやる形でやりました。和太鼓の人たちはセミプロ・プロもあるみたいですから

ども、だけれども、こちらからギャラをやるわけじゃなくて、自分らも堪能して出てきたわけですね。何回かやる中で、メンバーが実際に太鼓を叩き、いろんなことお互いが知り合っていくわけです。そういう中で、テクニックも向こうがうまいし、「東九条マダン」にもセミプロもいて、もう十何年やっていますから、かなりいろんなことがわかっているわけですね。速いチャンダン、遅いチャンダンやいろんなことがある程度わかっているわけですが、それを重ねる中で演奏しようということになったんです。ご存じのように、朝鮮の音楽の大半は8分の12拍子です。日本では3拍子に聞こえますけれど、4拍子系でやります。8分の12だから、3で割って4が出てくるわけです。それらを踏まえた上で、プームのような形でやってきたんです。

日本の文化というのは、元は外国からたくさん入ってきました。韓国・朝鮮の場合も一緒です。古代からいろんなものがよその国から入ってきたわけですね。国粹主義的に考える人は、これはもう水と油で、一緒にはできないという考え方を持ってしまうし、安易に考える人は何でも一緒にやりましょうとやってしまうんですね。そういう意味で、日本の中で、在日朝鮮人がつくっていく文化というのは、たとえば音楽を弾くときにしても、打楽器を叩くにしても、いろんなことを日本で創造していく可能性が非常にあるんですね。そういうものを踏まえながら、新しいプンムルでも、韓国のプンムルの方がうまいかもわかりませんが、在日朝鮮人はうまい、鑑賞するだけでもいいですよ。うまいかへたかは自身の暮らしの中に段々レベルを高めていって、音楽がつくられていくわけです。それがいいと思うんです。

そういう意味で、プンムルひとつにしても、かなり経験があります。いろんなことを考えながら、みんなでやっていけば、特別な先生がいなくてもうまくなれます。ですからもっとレベルを高めていくというのも必要じゃないかと思います。

◎司会 ありがとうございます。まだ発言されていない方、何かおっしゃってください。

### 「尼崎民族まつり」

ー将来は「市民まつり」に匹敵する大きな祭りにー

◎李相根（「尼崎民族まつり」）先ほどの質問の中で、和太鼓と一緒に練習して、発表されたという、うちの方では沖縄のエイサーをやってもらって、最後にプンムルと合体してもらいました。エイサーは沖縄の盆踊りなので踊れるわけなんです。プンムルも踊れるということで、最後のフィナーレですごく盛り上がりました。何というか、雰囲気は最高です。それは運命的なもので、その日その場所で合体したということです。

次に、お金集めの件ですが、市役所に援助しろと交渉してきましたが、一銭も出ません。私らだけじゃないですけど、もちろんみんな手弁当です。プログラムのパンフレットの後ろに広告1ページ5万円というように、広告をとります。たとえば、信用金庫へ行って載せてくれとお願いします。尼崎50万人市民の中で在日外国人が3%いて、一生懸命貯金していると言って、一緒に付き合いたいということで、心底話をすれば、わずかな金額でも出してもらえました。そんなことで、ほとんど広告で100万円ぐらい集めています。当然我々も出して、パンフレットも全部手作りです。ポスターにしても1番安いところで、1番安い黄色を使ってやっています。

動員に関しては、尼崎市教育委員会の後援をもらって、去年は市の掲示板にポスターを600枚張ってもらいました。合法的に、しかも市の職員が2週間掲示板に張ってくれるわけです。そのおかげで動員がかなりスムーズにできました。それと当日の3日前に、チラシ2万枚ぐらいを新聞の折込みに入れました。これもかなりの効果がありました。去年・一昨年は、300名にコーラをプレゼントして、韓国旅行が当たる抽選会をやったりと、いろんな方法があるということです。それで参加者が3000名から4000名になりました。

「尼崎民族まつり」は将来は「市民まつり」に匹敵する大きな祭りにしたいと頑張っています。

「福山マダン」

—赤字を出さずに—

◎中井（「福山マダン」）中井といいます。県教委が在日朝鮮人生徒の自主活動費ということで出しました。それと福山市と田辺町が出しました。屋台の値段設定を非常に安くして、マダンでの売上が100万円ぐらいでした。赤字を出さずにすみしました。

◎金涼一（「福山マダン」）「福山マダン」をやっているときに、民団・総聯の両方に入ってもらわないと保護者もなかなか来づらだろうということで、両方へマダンの話をしている、了解してもらっています。

「東九条マダン」

—領域の違う人も一緒にやろう—

◎小川伸彦（「東九条マダン」）京都から来た小川伸彦と申します。「東九条マダン」にかかわっています。先ほどいろんなマダンがあると指摘されて、民族文化を子どもたちに広めるという意味

もありますし、多文化共生というふうなこともあれば、つくり手が日本人ばかりじゃなくて、外国人ばかりでもなくて、いろいろだ、実行委員、運営主体における調整はあるし。3つ目は参加者となるべく偏らずにいろんな立場であるとか、文化の背景を持っている人が来るということもあると思うんですけども、4つ目として考えておく必要があるのが、僕も迷いながらお伺いしますが、地域というか、その共生が行われる場のことですね。今回こうやってマダンを見ますと、ほとんど地域の名前をつけているわけですけども、範囲が市レベルのところが多いですね。僕たち「東九条マダン」は小学校3つだけの学区の範囲で、非常に小さいところなんです。趣旨文の4つ目に書いてあることは小学校3つの学区の中でみんなが生活しているんだけど、その中で日本人も当然、そのほか障害者も朝鮮人も部落民もと、領域の違う人も一緒にやろうと書いてあるんです。

また、みなさん、地域というものをどういう意味で使われているのでしょうか。市をひとつの生活の場と考えると、それは地域であるかもしれません。

きょう、駅からここまで来る間にあまり祭りをやっているなという雰囲気は全然感じませんでした。もちろん電柱に貼ったりするのは違法だからしないでしょけれども。それはとりあえず置いておいて、文化の祭りとして子どもたちの目を開いて、子どもたちが大きくなったときに行政が可能になるということなのか、もっと今、生活している人たちの間で、朝鮮人であることをオープンにしながらか生きていけるような、そういうものを目指しているのか、その辺の悩みとか試みがあったらおっしゃって下さい。

◎ 司 会 きょうのお昼にライブをしていただいたシンガーソングライターの川西杏さんが会場にいらっしやいます。杏さんは東京で「金子祭り」という、渡来人由来の地名が行政によって町名変更されることに抗議の意味をこめたお祭りをされています。「金子祭り」についてお話いただけませんかでしょうか。

「金子まつり」(東京都世田谷区)

一渡来文化のあるところで—

◎ 川西杏 (シンガーソングライター・「金子祭り」)

今日はありがとうございました。こちらへきて、いろんな取り組みがあるのを知ってびっくりしました。みなさんと友だちになりたくて、大阪でアパート借りようかなと思っています (笑)。

私は東京の世田谷区烏山というところで不動産屋をやっています。「金子まつり」の話ですが、簡単にいえば、渡来文化のあるところへ来て、本当に5万円ぐらいしかなかったのに、一気に不動産屋になり、イベントホールを駅前に買うことができました。そこでやっています。金子の話ですけど、ちょうど朝鮮・韓国の文化や歴史を本当に何もやらないというね、私はそのとこへ来ていろんな朝鮮のお寺とか拝んだりして不動産の試験受かったから今日があります。感謝の気持ちで、働くお金はみんな死ぬまで返してしまおうという気持ちになったんですね。それで6000万円出して会館つくっているうちにそのイベントホールも買えるようになって、何か感謝して一生懸命自分の神様・仏様いるかわからないですけど、本当に昔から朝鮮人が死んでいる、間違いなく自分もそこで働けるわけだから、返していかなくちやという思いがあります。みんな一生懸命になって、

日本人の方が一生懸命です。朝鮮・韓国人は本当にやらないんでね。東京でもいろんなイベントをやっていますが、派閥があるんですよね。みんな仲良くやっているのかなと思うんです。

金子会館をつくりはじめたのも、有名になるためだというから、そうかな俺死んだら国にあげちゃおうと思っている、いいじゃないですか、朝鮮の歴史、・・僕がやってね、有名だとか売名行為とかいったってかまいはしない。僕は感謝しています。金子の歴史があって不動産屋になれたというのは事実です。もともと一銭もなかったし、就職できなくて、電車で先生に今は問題なんで、ちゃんと応じて日本人の顔して就職したら今の会社を辞めさせられた。なぜって、健康保険くれっていったらばれて、それから歌手に、働く19歳って、私は歌手だけは絶対なりたくなかったんです。そのうち、物マネ番組に出て、素人でプロ負かすことが好きだった。絵が上手で、本当は絵描きになりたかったんです。でも、月謝を払わないので、毎日立たされました。女を嫌いになったのは、その先生に2年間いじめられたからです。

◎ 司 会 杏さん、もうちょっと「金子まつり」についてお話ください (笑)。

◎ 川西杏 東京には調布や柏江というところがありまして、朝鮮からの渡来文化の歴史があるんですよ。東京では唯一の渡来文化の地です。

東京で音楽活動をやっていますが、いろんなイベントがあっても呼んでもらえません。私が東京都知事選に初めて立候補しました。しかし、参政権がないということで受け付けてくれませんでした。それで都庁前で座り込みしてきたんです。それも見た目は僕を排除して、見た目の参政権にしようと、その金子の歴史も渡来文化もみんなはそ

れを考えていません。みなさん一生懸命やっているんで結構だと思います。私は感謝します。日本人が一生懸命になることから我々があったんで、渡来文化も東京では、陰ながら歴史を勉強している人に教わってきました。

◎ 司 会 イベントづくりの方法論と内容についての話がいろいろ出てきました。もう少し時間があるようですので、どうでしょうか。

#### 「ならサンウリム」

—新渡日の子どもがたくさん入ってくる中で—

◎ 金孝誠 (「ならサンウリム」) 祭りのあり方とか、何を目指すかということいろいろ議論になっています。先ほど尼崎の方が言われたことがヒントになると思うんですけど、僕たちの中でも、祭りをやる前に、高校生や中学生が祭りに出るんですね。そこでいろんなことやるんですけど、今は奈良と交流会やってまして、そこに新渡日の子どももたくさん入ってきています。数は増えてくるんですけど、そうすると、この前話し合いやったんですけど、日頃お互い一緒にいるようで、実はあまり交流できてない。そういう意味で場が必要だと話し合いました。中国人の子が、中学校から本名にしたら、名前の発音がおかしいといわれて、それでやっぱり日本名にしたと、ここへ来たら本音とかいろいろ出て、民族名で、すごく学校楽しいというそういう話、その辺はコリアンもすごくここよかった。じゃ祖国に行ったらどうなるかと思ったら、この韓国人の子は日本で生まれて、日本で育てているから、韓国は祖国という感じはせえへんというような話が出ていて、こういう意味では重なるところ重ならないところがある。お互いに集まって楽しいだ

けでは駄目だなと思うんですけども、ただし、それに祭りという形は出てません。楽しいものがないといけないと思うんです。そのときに、あまりむずかしいこと考えたらあかんというのがあります。先ほどおっしゃったように、この文化とこの文化があうとかじゃなくて、やっぱりいいものはいい、いいものは必ず触れ合うんです。「ならサンウリム」でも、ブラジル人が中心になってサンバを練習してパーンとやったときに、夜間中学のオモニたちが途中からばーっと加わってきて勝手に踊り出すんですよ。今の沖縄のエイサーのお話を聞いていて、本当に重なっていると感じました。理屈を考えていたら多分駄目になってしまう。そういうものを乗り越えられるのが祭りの素晴らしさじゃないかと思いました。

◎ 司 会 ありがとうございます。

#### 「東九条マダン」

—自分の民族性みたいなものを日本の中で見つけようとして—

◎ 梁民基 (「東九条マダン」) 朝鮮文化が中心になってやっているとき、60万人ほど在日同胞の中で、かなり活動しておる人が多いかも知れませんが、それだけじゃないんですね。ご存じのように、我々は長い間、植民地にあったわけですけども、解放直後、在日本朝鮮人聯盟とか、いろんな民族団体ができますね。そういうところの綱領とか方針を見てみると、農楽や仮面劇や民謡などは植民地時代には長い間できなかったもので、そういうものを復興させて、それを基にして新しい文化をつくっていかうというのがあるんですよ。

解放直後から1948年ぐらいまで、あちこちで自然発生的に旧正月になると農楽をやるんです。

人をたくさん呼んで、鐘叩いて、1軒1軒回って、お米とかお金とか出させて、何年か続いていました。名古屋でも朝鮮人がかたまって住んでいるところでありました。京都にもありました。朝鮮戦争が過ぎて少したった時期からはなくなってきました。むしろ在日朝鮮人の知識階層、あるいは組織の中心にいる幹部たちがむしろそれを止めさせたというのがあります。旧正月にチャンゴを叩いて町中を歩くというような古臭いことはやめろと。それで何をやったかという、音楽といえはヨーロッパから日本にやってきて、音譜におたまじゃくしで表示されたのをやっていく、リズムと言えは西洋音楽、それが80年代ぐらいまで在日朝鮮人の中で続きました。

やっとこさ韓国へ踊りを習いに行けるようになるのが70年代半ば頃です。大阪から行った人たちがいます。その人たちが韓国で見たのがブンムルです。その頃は軍事政権下ですから、大学内で突発的にみんながブンムル叩いて踊る、要するにそれで集まって、原っぱで何か芝居をやっているというようなことを見た人たちが帰ってきます。その人たちが80年代初頭にやり出したのが、「生野民族文化祭」です。

そこではマダン劇やいろんなことやりました。日本にはたくさんの文学者や芸能人がたくさんいますが、だれが参加しましたか。いまだにそうした人たちは参加しないですよ、参加できないわけですね。ですから、1980年代後半ぐらいから、各地に広がっていきました。あるところでは、自然発生的といいますが、世代が変わってきます。在日同胞の中で、現実としては「帰化」をして、日本人化していく。自分を隠そうということもありますけれども、一方では新しい世代が生まれ、

自分の民族性みたいなものを日本の中で見つけようとするんですね。そういう人たちがチャンゴとかに魅かれてきた。私もずっと民族文化に関わってますけれど、訪ねて来てやろうとする人たちの多くはそういうものに魅かれるんです。今までは民族的なものを隠している人が非常に多いです。日本国籍に蓋をしている。ほうっておけば、でもそういうことがあったときに、駆けて来るわけです。私は金某とか、崔某とかいって訪ねて来るわけです。段々わかってくると、実は私は「帰化」をして、国籍は日本だけれども、朝鮮名で生きたい。「帰化」したのは自分じゃなくて、親であったわけです。

今の状況を見ると、民族文化祭・マダンというものが解放直後から、長い間、ある意味では民族的なものを文化の面でも、文化的要素が本来はあっていいものをなくしてなかったんです。そういうものが80年代頃からあります。韓国の民主化運動の中から生まれた新しい芸術運動を直接知らなくても、一連の動きとして、在日朝鮮人の中にもくもくと沸き上がってきたのが今のマダンの状況です。多くの日本人と交わったり、各地で形は違いますけれど、私はそれでいいと思うんです。そこのいろんな状況があるから。そういうのが今、沸き上がってきている。だから多様なかたちで浮かび上がっているものを、もう一度自分たちを振り返って、あるいはよその地域での経験なんかをお互いに交流しあいながら、自分たちは今ここでどうしていくかというのを思っている。

これは文化の営みですから、単純ではないと思うんです。創造的なことが可能であると思うんで、こういうものを期待して、交流を深めていけば、在日朝鮮人だけじゃなしに、日本になかったそう

いう悲しい文化みたいなもの、ただこれは既存のいわゆる・リズムと相対する対抗文化というふうな性格はね、対抗するんだというような気持ちはなくても、そういう性質のものがあるんじゃないかと私は思います。

◎司会 ありがとうございます。今の話ですけれども。

「伊丹マダン」－日本の財産に、世界の財産に－

◎方政雄（「伊丹マダン」） 僕もこの日本の中で新しい文化を開始しているという思いがあります。1980年代から韓国のマダンという民衆芸能を日本に定着させてきたというんですけれども、おそらく捉え方のひとつだと思います。じゃなぜ1980年代に、そういう文化が日本の中で定着していったかということなんです。ここでは特に学校の先生が多いと思うんですけれども、1970年代から日本の教育現場で、朝鮮人が民族の自覚を持って、本名を名乗ったり、朝文研をつくっていったり、それまで日本の教育現場の中で見過ごされていた在日朝鮮人が目覚めていきます。その人たちが学校現場で今まで埋もれていた朝鮮を見直して、民族差別撤廃の流れをつくっていくわけです。

その支えは今まで、行き詰まった自分のさせるためのそういう思いで見ることの支えは、今、韓国からいわゆる文化機関を糾合したと思うんですね。ですから、韓国から輸入するだけでは心は育たないんですけれども、土壌としてそういう意識が、日本の学校に行って、朝鮮人として、自分の民族を探して、それを日常の中で完全に消化できていません。日本人に知ってほしいというのがあるわけです。

さっきもいったように、いろんな外国の生徒と

いろいろ話をするんですが、やっぱり在日韓国・朝鮮人が核になって、いろんな文化をくっつけていって、多文化にもっていかなきゃならないという思いがあります。

先生方もおそらく自分の生徒、子どもが朝鮮人で、本名を名乗って、朝文研と関わりがあって、マダンをつくり上げてきた、根っこはそこにあると思います。ところが、日本の文化を左右するまでにはいってないんですけれども、日本の文化の中に根付いていって、日本の財産になります。世界の財産になっていくかも知れません。

◎司会 ありがとうございます。時間がきました。まだ発言していらっしゃる方どうぞ積極的にお話したいと思います。

「たからづか民族まつり」

－ホームページで情報配信を－

◎近藤富男（「たからづか民族まつり」） せっかく「全国マダン会議」をやったんですから、提案をしてみたいと思います。さっきもいいましたように、私、つい一週間ほど前に、何とか自力でホームページを立ち上げました。よければ、藤井さんのところに送られた原稿をフロッピーで私に送ってください。ホームページで、これだけのマダンがあって、こういう形でやっているということを書いて、情報発信をして、できるだけ多くの人に見てもらえるようにしようと思いました。

◎司会 お申し出、ありがたく思います。ほか、どなたかご提案を。

「みのおセツパラム」

－手持ち無沙汰を解消するためのアイデア－

◎野間耕平（「みのおセツパラム」） 野間耕平と

申します。今、韓国<sup>チンギョ</sup>の晋州市で、チャンゴの指導をしています。「東九条マダン」とかいろいろ何回も行ったんですけども、最初行ったときは、すごく面白かったです。こんなふうにやっている、こんなこともやっていると。2・3回行くと段々つまらなくなつて、ここも同じことやるんかとなります。どこも内容を見てみたら、屋台があつて、広場のまん中で、出し物して踊りやブンムルやつて、大体同じ形になっていると思います。

行った人の立場からしたら、一通り出店を見て、会場を見回したら15分ぐらいで終わるんですね。そのあと手持ち無沙汰なんです。そういうのを解消していけないかと思うので、一つアイデアを出したいと思います。

たとえば、「韓国・朝鮮〇×クイズ100問」というのをパソコンのソフトでつくって、会場にパソコン5台ぐらい置いて、誰でも自由にいろいろやれるようにする。100問中90問以上正解の方には賞品を出したりというふうにして、そこで時間もつぶせます。一日中楽しめるアイデアは、初級編・中級編・上級編をつくって、小学生には初級というふうに。さらに「みのおセツパラム」でソフト開発しました、問題つくりましたと。そして次に「じゃこっちにもソフトを貸してもらえないか」というか、「ああ、いいです。どうぞ貸してもいいです」「じゃ今度まわして」とかいうふうに。セツパラムで開発したからセツパラムだけで使うんじゃなくて、せっかく、ここにこれだけ各地から、すごい顔触れが集まっているから、お互いにこっちでいいものあつたらこっちでも使う。何かそういうことができないかなと、どこかでつくりませんか。

それから、「生野民族文化祭」に行つて、町中

を50人ぐらいでパレードしているのを見て、すごくいいなと思いました。あれを箕面でもできたらいいなと思うんです。やっているところは生野や東九条ぐらいで、ほかのところはあまりやらないので、どういうようにしていつているのか、そういう部分教えていただけたらなと思います。

「東九条マダン」 いろいろな仕掛けをつくってー

◎ 渡辺毅（「東九条マダン」） 今のことですけれども、「東九条マダン」では外に出てパレードをしています。パレードの許可申請を警察に出して、許可してくれればできますし、そこは話の持って行きようだと思うんですけども、箕面でしたら、行政主体でやっているようなところですから、ほかに比べてOK出やすいと違いますか。

それと時間つぶしというのがありましたけれども、ほかのところでも多かれ少なかれやっていると思いますが、僕たちの場合は会場にいろいろなコーナーをつくっています。楽器体験コーナーとか、障害者グループも参加しているんで、子ども向けに車椅子体験コーナーなんかもやったりして、この辺はちょっと焦点がぼやけるって批判があるかもしれないんですけども。大人はどうか知りませんが、子どもたちは結構楽しめる。いろいろな仕掛けをつくっているつもりなんです。

◎ 司 会 ぜび野間さんがクイズをつくって、ホームページに掲載してください。今日はひとつ希望が出てきたような気がします。

「三・一文化祭」

一日本人の子どもにもいいイメージで  
朝鮮とつきあっているという視点一

◎ 李幸宏（「三・一文化祭」） ミックス的にやる

ことについて、福岡でもいろいろ議論がありました。和太鼓も申し出があって、今回は入れようという話になっています。

反差別関係で、顔見知りのメンバーがしているということもあるんですけど、去年でしたか、たまたま近くでアイヌ民族のイベントがあって、ついでにしてくれることになって、短い時間でしなが一緒にやれました。

「三・一文化祭」は在日を表に出していますが、最初の頃はぎこちないぐらい、とりあえず在日だというのを出していったって、5～6回やって、少しは知られるようになってきたかなというぐらいからいろんな人にも参加してもらおうというように。どの程度かは、実行委員の中でも侃々諤々ありました。僕はわりとええ加減な性格なんで、いろいろやればいいというものではなからうなんて話になったりする感じです。

運営に関しては、発端は民族差別問題の取り組みとか、在日の親のつながりとか、何らかいらいろ動きがあるならば、何とかかなと思ってます。この間、実行委員長をやってきましたが、住んでいるところが福岡市の多住地域からは離れていて、電車で行かないと着かないんです。真ん中に住んでいるオモニにやってもらった方がいいんで、しきりと言ったんです。今回ようやく実行委員長をはずれて、裏方で楽しめるという状況になって、ほっとしています。

福岡でやったときにラッキーだったのは、その前に、外国人登録法の問題の取り組みがあったり、教員の国籍条項問題があって、在日の教師がそれ以後2人メンバーになって、積極的に動くということがありましたから、その後の動きやすかったと思います。

ただ、どこまで植民地支配の歴史を学ぶなり、単純に楽しもうという部分を出そうかということ、メンバー間の考え方の違いなり、その時々考え方があって、簡単ではありません。在日はがんがんもの食べて喧嘩しますので、やっている最中に場外乱闘みたいなのがあったりとか、どここの組織は仲が悪いとかあったりするんですが、なんとなくのほほんとしているので、やってこれたかなという気がします。

最低限、在日の子どもにマイナスのイメージでやらないで、日本人の子どもにもいいイメージで朝鮮とつきあっているという視点があれば何とかなるかなと感じています。

◎ 司 会 「みのおセツパラム」もなんとか開催されていますが、いつもぎりぎりになると、メンバーの間で「みのおセツツマル（切羽詰まる）」とかいいあっています。

「ならサンウリム」 一何でマダンをやるのか？

◎ 金孝誠（「ならサンウリム」） 奈良の金孝誠です。「ならサンウリム」の場合は教員の関わりがすごく大きいです。聞きたかったのは、自分のことに向き合えない子どもたちが多く、在日自身もしんどいと思うんですよ。それで、やっぱりある意味で付いて来るといえるものがあるんですが、付いて来るときというのは教員の力というのすごく大きいんですよ。特に、自分が本名でいってる子は伏せていいんです。そんな子はお前来るなというも来るんです。ところが、明かせない子とか、親から朝鮮人だと知らされていない子とか、今、課題になっている日本籍朝鮮人の問題ですね。すごく数が増えているし、教員自身が日本籍の子を把握できない状況もあります。例えばマダンの

場合、連れて来るなりとかしている教員がいてるわけですね、そういう教員たちに働きかけとか、今、聞いていたら教員が結構あるとかいう話も出ていたんですが、その辺はどういうふうにとらえてはるのかなというのを聞きたかったんです。

それと、もう一つは何でマダンをやるのかという話にどうしてもなってくるんで、あとの交流会で酒飲みながら出てくるかなという期待があります。もう一つ気になっているのが、実際に自分も夜間中学の教員なんですけど、若い子というのは少ないですね。新渡日では結構若い子がいるんですが、特に、中・高校生の交流とか、朝鮮人だけじゃなくて、いろんな新渡日の子にも関わっているんですけども、特に在日は小さくなっているんじゃないですか、そこに喜ばしいことだとは思いますが、同世代の中国人・ブラジル人の子が教えに行くんですよ、そのことについて、僕の中から見ると、幼くなって在日、こせ正直に話してしまう、こんな話していかないかと思うんですが、新渡日の日系ブラジル人3世の子は感覚も違うと思うんです。押しに行く新渡日の子、押しに行かない仮設登録ということで申請に行くんですが、押しにいかない子というのはどうなんやというのが正直今、持っています。そこを大事にしたというか、きちと細かく見て、付き合いたいという思いがすごくあって、そういう感覚は在日朝鮮人にはあるんじゃないですか。きょう学んだことなんですけれど、そこも見習わんとあかんな、その辺どういうふうにとらえてるかなというのを聞きたかったんです。

◎ 司 会 確かにマダンをやるということは人が集まるということですから、一人ひとりの考え方があったらいいかも知れません。時間がきまし

たが、もう一人二人お願いします。

「福山マダン」

—マダンをやり切って清々しい顔—

◎ 金涼一（「福山マダン」） 今の金孝誠さんのお話を聞いていて思ったことですが、「福山マダン」は4回目ですが、5月から6月頃から実行委員会立ち上げていきます。やっぱり中・高校生が主体です。僕ももちろんその子らに関わっていくし、それ以外にも在日の生徒がおるんですが、日本籍の子もいます。関わっているんな話していく中で、子どもらが徐々に変わっていくように見えます。実際、マダンで自分のことがわかってしまうじゃないかという在日の子がおったりするんですけど、何でそれがしんどいんかという話、直接いろんな話できるのもいいです。その中で子どもらが変わって行って、マダンをやり切って清々しい顔をしているんです。楽しい部分も大事だし、それに向かって日々の糧というか、今まで2回のマダンの中で感じました。

各地にいろんなマダンを見に行きました。去年は「東九条マダン」や「伊丹マダン」にも見に行きました。「伊丹マダン」のことは「東九条マダン」でチラシを見て知りました。今回「全国マダン会議」にたくさんの方々が来て、どこでいつあるよというのを知りたいです。しかし、広島から福山まで100キロ離れているし、行くだけでも大変なんですよね。大阪も出てこようなると250キロもあって結構動くのが大変な面もあったりして、それぞれのマダンがもつよさを実際に見に行って、吸収して、それをもらいたいと思います。ホームページの話はすごくいい話だと思うので、よろしくをお願いします。

◎ 司 会 ありがとうございます。

「ふれあい芦屋マダン」

—マダンを維持していくためには—

◎ 辻本久夫（「芦屋マダン」） 一番困っていることだと思うんでいます。いろんなマダンのあり方があって、教師主体の場合は全部学校でやっていると思います。だからお金も使わない。行政主体の伊丹とか箕面は行政の事務所を使っている。尼崎や長田は事務所がない。そのために日常的に活動ができない。私とこみために10年やっていると、看板や荷物がいっぱいあります。それをどこで保管するか。うちの学校は好意的だから、部室を使わせてもらっています。ほんとうは置いてはいけないんです。市民祭りのものを学校に置くというのは基本的には僕も大嫌いです。しかし、行政にいくら交渉してもできません。それで事務所や倉庫の問題を考えていかないとけない。マダンを維持していくためには、経済的な問題はおんぶに抱っここの伊丹と箕面のようなところでできません。NGOでやっているところはどうかと。

◎ 司 会 最後に「みのおセツパラム」のベ斐ヘ解ヂキ子キさんから一言お願いします。

「みのおセツパラム」

—地域に根ざしていくことが重要—

◎ 斐解子（「みのおセツパラム」） では、三言ほど。駅からここまで祭りの雰囲気になかったという話がありました。「みのおセツパラム」も去年、シルクスクリーンの手作りで、幟を20枚つくりました。今年どうしても倉庫で見つからなくて、出せませんでした。

次に、箕面の地域性についてですが、箕面には大阪外国語大学が、隣接する豊中・吹田には大阪大学があって、留学生や外国人教官・研究者が多いです。外国からいろんな方が来ています。今回、市内在住のタイ人によるタイ料理やニュージーランドからのAETによる先住民マオリの踊りやメキシコのラテン音楽、和太鼓にも出演していただきました。いろんな方に知ってもらうことが基本です。出会いはから始めるということです。

私たちも箕面の地域性に密着して、地域で根付いていくという、この7年間やった中の一つひとつ、箕面の中にチャンゴとかチョゴリとか定着してきました。市内の全小学校で「みのおセツパラム」のチラシを配ってもらっています。

地域に根ざしていくということが重要だと思っていますので、私たちがおんぶに抱っこで、箕面市にしっかりとしてもらいながら、本当にいろいろ喧嘩もやります。本音はやっぱり言わないとわかりませんので。また、私は在日2世ですけれども、日本人の協力なしにはやっていけません。そういう意味でいろんな方が来て、陰で支えて下さる。本当にありがたいと思っています。今回、初めて出会った方いっぱいいらっしゃいます。私もほかのマダンに行けなくて申し訳ないんですけども、今後またみなさんのネットワークを持っていきましょう。みんなそれぞれ悩みもあります。そういった点、声を出して、手をつないで、今後「みのおセツパラム」でこういうことができればと思います。今のところ行政がしっかりついていますが先はわかりません。そういう点、みなさんにいいお知恵をお借りしたいと思います。本当に貴重な時間、どうもありがとうございます。今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

◎ 司 会 各地のマダンから来ていただいたパネラーのみなさん、すべての参加者のみなさん、長時間、ありがとうございました。いろんな課題がでてきましたが、これで「全国マダン会議」を終わりたいと思います。

## 2008年 京阪神+各地の【民族まつり / マダン】情報

(作成：藤井幸之助)

【凡例】名称・キャッチフレーズ・日時・会場・主催・ホームページ

### ■「祝八尾テト」

「～テトを祝い、明日を見つめる市民の集い～」

日時：2008年は不開催(第11回2009年2月8日再開)【入場無料】

会場：八尾市生涯学習センター

主催：「祝八尾テト」実行委員会

### ■第20回「神戸南京町春節祭」

日時：2月7日(木)～11日(月・休)【入場無料】

会場：南京町広場(JR・阪神「元町駅」下車)

主催：「神戸南京町春節祭」実行委員会

<http://www.nankinmachi.or.jp/shunsetsu/spring2008/>

※1997年に神戸市地域無形民俗文化財に指定

### ■2008「長崎ランタンフェスティバル」

「長崎の冬を彩る中国絵巻。光の中で、晩上好(ワンシャコンハオ)」

日時：2月7日(木)～21日(木)【入場無料】

会場：湊公園・長崎新地中華街・中央公園他

主催：長崎ランタンフェスティバル実行委員会

(長崎市さるく観光課内)

<http://www.nagasaki-lantern.com/>

### ■「横浜中華街2008春節祭」

日時：2月9日(土)～11日(月)・16日(土)～17日(日)【入場無料】

会場：横浜中華街(みなとみらい線「元町・中華街駅」下車)

主催：横浜中華街発展会協同組合

<http://www.chinatown.or.jp/news/shunsetsu08/>

### ■第2回「猪飼野おとなの文化祭」

「おとなが楽しそうに生きていなければ、子どもも楽しいわけがない！」

日時：3月1日(土)17:00～【会場費カンパ:500円以上、大歓迎!】

会場：KCC会館5階ホール06-6731-6801

主催：猪飼野おとなの文化祭実行委員会

<http://fanto.org/index.html>

### ■第6回「マダンの風を淡海から」

日時：3月15日(土)13:30～16:30

会場：草津市立人権センター

参加費：500円(18歳未満無料)

参加費は「デイサービスけなり」の運営費として使わせていただきます。

主催：朝鮮文化を考えるチング・在日高齢者デイサービスけなり

### ■第17回「ふれあい芦屋マダン2008」

日時：3月30日(日)11:00～15:00(雨天決行)【参加無料】

会場：芦屋市立打出浜小学校運動場(雨天時は体育館)

主催：ふれあい芦屋マダン2008実行委員会

<http://www.multiculturalworld.org/asiya/>

### ■第19回「三・一文化祭」

日時：3月30日(日)10:30～16:00【入場無料】

会場：福岡市立千代小学校(地下鉄「千代県庁口駅」下車)

主催：三・一文化祭実行委員会

<http://festa31.infoseek.ne.jp/>

### ■「芝楽春祭」⇒2009年不開催

「春祭4本柱 角付け・国際屋台通り・打楽器の祭典・おんどり相撲大会」

日時：4月6日(日)9:30～門付、広場11:00～15:00【入場無料】

会場：当対池公園(箕面市萱野2丁目)ほか、萱野地域全域

主催：芝楽春祭実行委員会

<http://www.geocities.jp/minohyorokadi/shibarakuharumatsuri.html>

### ■「ブラジル移民100周年祭」

日時：4月12日(土)～27日(土)【入場無料】

会場：旧神戸移住センター・神戸メリケンパーク

主催：NPO法人関西ブラジル人コミュニティ

<http://www16.ocn.ne.jp/%7Ecbk.bras/>

### ■「金子まつり」

日時：5月6日(火・休)11:00～16:00【入場無料】

場所：つつじヶ丘児童館ホール(京王線「つつじヶ丘駅」下車)

主催：調布市国際交流協会(会長：川西杏)0424-81-6688  
<http://www11.ocn.ne.jp/~c-sohen/index2.html>

■第7回「枚方・百済フェスティバル『百済と古代の枚方』」

日時：5月10日(土)10:00～16:00【入場無料】  
会場：岡東中央公園(京阪本線「枚方市駅」下車)  
主催：枚方・百済フェスティバル実行委員会・枚方フェスティバル協議会 <http://www.hirakata-festival.com/>  
■マダンから広がる交流の輪！「韓日親善交流マダン」

「在日韓国人と日本人との親善交流を図る」  
日時：5月18日(日)10:30～15:00【入場無料】  
会場：大阪城公園「太陽広場」(JR環状線「大阪城公園駅」下車)  
主催：在日本大韓国民団大阪府地方本部  
<http://mindan-osaka.org>

■第15回「統一マダン生野」

「民族はひとつ・祖国はひとつ・同胞はひとつ」  
日時：6月1日(日)12:00～17:30(雨天決行)【入場無料】  
会場：新今里公園(近鉄奈良線「今里駅」下車)  
主催：第15回「統一マダン生野」実行委員会  
<http://osaka.madang.jp/>

■第12回「統一マダン京都」

日時：6月4日(日)13:00～【入場無料】  
会場：壬生檜公園(京都市中京区西大路通高辻東入ル)  
主催：第12回「統一マダン京都」実行委員会

■第6回「なかよし加古川ミニマダン」

日時：6月8日(日)10:00～15:00【入場無料】  
会場：加古川市立別府中学校(山陽電車「別府駅」下車)  
主催：第6回なかよし加古川ミニマダン実行委員会

■第12回「統一マダン神戸」

「-私たちの願い- 6.15南北共同宣言の精神を分かち広めよう！同胞は一つ！民族は一つ！祖国は一つ！出会いが理解を 理解が平和を！ともにつくり出そう 子どもたちの未来を- 分断の悲しみの涙を統一の歡喜の涙に！-」  
日時：6月15日(日)11:00～17:00(雨天決行)【入場無料】  
会場：JR新長田駅前広場(ビブレ前)  
主催：第12回「統一マダン神戸」実行委員会  
<http://hyogo.madang.jp/home/>

■神戸朝鮮高級学校「朝高祭2008」

日時：6月21日(土)10:00～15:00(雨天決行)【入場無料】  
会場：神戸朝鮮高級学校(JR「垂水駅」下車)

主催：神戸朝鮮高級学校  
<http://www.kobe-krhs.ac.jp/TOP/TOP.html>

■2008「厳原港まつり対馬アリラン祭」

日時：8月3日(日)21:00～21:30【入場無料】  
会場：長崎県対馬市厳原町厳原港東浜・厳原港東浜ふ頭  
主催：厳原港まつり対馬アリラン祭振興会(対馬市商工会厳原支所内) <http://f43.aaa.livedoor.jp/~ariran/>

■第15回「統一マダン東京」

日時：8月3日(日)16:30～20:00【入場無料】  
会場：荒川区・旧真土小学校(JR「三河島駅」下車すぐ)  
主催：第15回「統一マダン東京」実行委員会  
<http://www.madang.jp/tokyo.madang/>

■第13回「2008対馬ちんぐ音楽祭」

日時：8月23日(土)15:30開場16:00～21:00 交流会21:20～  
【コンサート料金：前売2000円/当日3000円】  
会場：対馬グリーンパーク芝生広場  
出演：小室等・財津和夫・八反安未果・イムジフン・Ibadi  
主催：対馬ちんぐ音楽祭実行委員会(対馬市美津島支所地域振興課) <http://www.chingu.jp/>

■第31回「しものせき馬関まつり」

日時：8月23日(土)～24日(日)【入場無料】  
会場：山口県下関市JR「下関駅」～唐戸各所  
主催：下関まつり合同会議事務局(下関市観光振興課)  
[http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/kanko/frame/arekore\\_event\\_bakan.html](http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/kanko/frame/arekore_event_bakan.html)

■第18回「尼崎民族まつり」⇒2009年不開催

「未来へつながる楽しいまつり 意義あるまつり 多文化交流のまつり 平和への思いを統一する みんなのマダン」  
日時：8月31日(日)16:00～21:00(小雨決行)【入場無料】  
会場：橘公園(尼崎市役所東側)JR立花駅東へ  
主催：尼崎民族まつり2008実行委員会  
<http://www66.tok2.com/home2/fesnet/index2.htm>

■朝鮮民主主義人民共和国創建60周年記念「大阪同胞祝祭」

日時：9月7日(日)11:00～15:00【入場無料】  
会場：大阪朝鮮文化会館(大阪朝鮮高級学校体育館)  
主催：朝鮮民主主義人民共和国創建60周年記念「大阪同胞祝祭」実行委員会

■第34回「エイサー祭り」

日時：9月14日(日) 12:00～20:00【入場無料(100円でパンフレット購入)】

会場：大阪市大正区千島公園グラウンド(大正区役所前)

主催：関西沖縄の集いが集まるの会 関西沖縄文庫

<http://okinawabunko.hp.infoseek.co.jp/>

■「東北アジアに平和を！ピースフェスティバル2008」

「冷戦が今なお続く東北アジアにも、ようやくその終結の兆しが見えてきました。6年前の9月17日には、日朝国交正常化に向けて日朝ピョンヤン宣言が結ばれ、朝鮮半島の非核化に向けた6者協議も進んでいます。東北アジアの戦争の歴史を見つめ、草の根市民交流や文化交流を発展させることで、平和を実現しましょう。」

日時：9月14日(日) 13:00～16:30【参加費：500円】

会場：神戸市勤労会館大ホール(JR・阪神・阪急「三宮駅」下車)

主催：東北アジアに平和を！ピースフェスティバル実行委員会

<http://asian-peace.com/>

■～平和と共存のための～「おまつり地球一周」クラブ

「小学生のみんな！外国の文化に、楽しみながらふれてみませんか？」9月のテーマ『ラテンアメリカ』

日時：9月14日(日) 10:00～12:00【参加無料】

会場：とよなか国際交流センター(阪急宝塚線「豊中駅」下車)

主催：(財)とよなか国際交流協会

<http://www.tcct.zaq.ne.jp/toyonakakokuryu/index2.html>

■「ブラジリアン・交流フェスタ」

「ブラジル移住100周年記念」

日時：9月21日(日)・22日(月)

会場：川崎市国際交流センター(東急東横線・東急目黒線「元住吉駅」下車)

主催：川崎市国際交流センター

<http://www.kian.or.jp/kic/>

■白頭学院建国中学校「文芸祭」

日時：9月24日(水)【参加無料】

会場：白頭学院建国中学校(JR 阪和線「杉本町駅」下車)

主催：白頭学院建国中学校 <http://www.keonguk.ac.jp/>

■金剛学園「金剛祭」

日時：9月27日(土)【参加無料】

会場：金剛学園(ニュートラム「トレードセンター前駅」下車)

主催：金剛学園中学校・高校

<http://www.kongogakuen.ed.jp/>

■京都国際学園「文化祭」

日時：9月28日(日)【参加無料】

会場：京都国際学園(京阪・JR「東福寺駅」下車)

主催：京都国際学園

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kkgakuen/>

■「はんまだん(みんなの広場)」

「朝鮮半島にルーツを持つ高校生と日本の高校生の交流会」

日時：10月4日(土) 10:00～17:00【交流会協力費：1000円(昼食費用を含む)※高校生は全て無料】

会場：大阪府立桃谷高校(JR 環状線「桃谷駅」下車)

主催：大阪府立学校外国人教育研究会

■「ええやんか！おうみ多文化交流フェスティバル in くさつ」

「～いろんな文化があつてええやんか(すばらしい!)～」

日時：10月5日(日) 10:00～16:00【入場無料】

会場：草津小学校グラウンド(滋賀県草津市草津3-14-5)

主催：おうみ多文化交流フェスティバル in くさつ事務局(大津市柳が崎5-25 近江渡来人倶楽部内)

<http://www1.odn.ne.jp/trying/04-tabunka/2008f/index.html>

■「兵庫アンニョンフェスティバル2008」

「～出会い、ふれあい、同胞愛～」

日時：10月5日(日) 11:00～15:00【入場無料】

会場：須磨海浜公園(JR「須磨海浜公園駅」下車)

主催：兵庫アンニョンフェスティバル実行委員会

■第5回「KAWASAKI 大交流祭2008」

「川崎市民との多文化共生 国際親善交流イベント」

日時：10月5日(日) 10:30～15:00 \* 10:30にオープニング花火を打ち上げ【入場無料】

会場：川崎朝鮮初級学校グラウンド(川崎市川崎区桜本2-43-1)

主催：川崎青年商工会 044-322-7280

■「津まつり」藤堂高虎公入府400年記念事業

日時：10月11日(土) 10:00～21:00

12日(日) 9:00～21:30【入場無料】

会場：津市内中心部

370 年程前から続く津市最大の祭礼で、朝鮮通信使由来の分部町唐人踊りが市内を踊りながら巡り歩きます。

主催：津まつり実行委員会 059-229-3170

<http://www.searchnavi.com/~hp/tojin/>

#### ■第 12 回「フレンドシップデイ in 三田」

「みんなで育てよう多文化共生！」

日時：10 月 12 日（日）12:00～16:00（雨天決行）【入場無料】

会場：フラワータウン市民センター（JR 福知山線「三田駅」下車）

主催：フレンドシップデイ in 三田実行委員会（三田市総務部人権推進課内）<http://www3.city.sanda.hyogo.jp/>

#### ■コリア国際学園第 1 回「学園祭」

日時：10 月 25 日（土）11:00～15:00【入場無料】

会場：コリア国際学園（茨木市豊川 2-13-35）

主催：コリア国際学園 <http://www.kis-korea.org/>

#### ■第 4 回「人権フェスティバル」

日時：10 月 25 日（土）・26 日（日）【入場無料】

会場：伊丹市立人権啓発センター「ふらっと」

共催：伊丹市・第 4 回「人権フェスティバル」実行委員会

問い合わせ：NPO 法人伊丹市人権啓発協会（「おるか」の会）伊丹市堀池 3-1-22 072-779-6141

#### ■第 18 回「八尾国際交流野遊祭」

「いろいろな人に出会い・いろいろな人と交流し・そして共に生きる社会を体感しよう！（出会い・交流・共生）」

日時：10 月 26 日（日）11:00～15:00【入場無料】

会場：八尾市南本町第 1 公園（JR 関西線「八尾駅」下車）

主催：八尾国際交流野遊祭実行委員会

<http://tokkabi.ld.infoseek.co.jp/yayusai/yayusai.htm>

#### ■第 14 回「インターピープルカーニバル」

「多文化の祭典、インピカ ステージで民族舞踊や歌を楽しみ、屋台で各国の料理を味わおう！」

日時：10 月 26 日（日）10:00～15:00（小雨決行）【入場無料】

会場：堺市役所前広場（南海本線「堺東駅」下車）

主催：インターピープルカーニバル実行委員会

[http://www.geocities.jp/in\\_pi\\_ca/](http://www.geocities.jp/in_pi_ca/)

#### ■第 24 回「ワンコリアフェスティバル 2008」

「HANA × 東アジアの未来」

日時：10 月 26 日（日）11:00～17:00（最大 18:00）【入場無料】

会場：大阪城公園「太陽の広場」（JR 環状線「大阪城公園駅」下車）

主催：ワンコリアフェスティバル実行委員会

<http://hana.wwonkorea.com/>

#### ■「マイ・マイ・フェスティバル 2008」⇒開催見送り

「差別なく共に生きるための異文化交流—NO!! 監視通報の社会—違いが輝く共生社会—（2007 年）」

「マイ・マイ・フェスティバルについて」RINK 代表 丹羽雅雄

[http://www.geocities.co.jp/kansai\\_immigrant\\_rights/maimai2008.html](http://www.geocities.co.jp/kansai_immigrant_rights/maimai2008.html)

#### ■第 25 回「朝鮮文化に親しむ東大阪子どもの集い」

日時：10 月 22 日（水）13:30～15:45【関係者のみ】

会場：東大阪アリーナ（近鉄奈良線「八戸ノ里駅」下車）

主催：朝鮮文化に親しむ東大阪子どもの集い実行委員会（東大阪市民権教育研究会事務局 06-6783-2481）

#### ■第 22 回「大野遊祭 in 高槻」

「在日外国人と日本人の交流・交歓の集い」

日時：11 月 2 日（日）10:00～15:00

【参加費：大人 1000 円、小・中学生 300 円（大焼肉パーティー）】

会場：あくあびあ芥川

主催：大野遊祭実行委員会 <http://www.mukuge.net/>

#### ■第 12 回「たからづか民族まつり」

「よっといで見においで—共に生きようこの街で—」

日時：11 月 2 日（日）11:00～15:00【入場無料】

会場：宝塚市立良元小学校（阪急今津線「小林駅」下車）

主催：たからづか民族まつり実行委員会

<http://www.eonet.ne.jp/~kjin/madan.htm>

#### ■第 16 回「東九条マダン」

「いこかつくろか みんなのまつり」

日時：11 月 2 日（日）10:00～16:00【入場無料】

日時：京都市立東和小学校校庭（地下鉄「九条駅」下車）

主催：東九条マダン実行委員会

<http://www13.big.or.jp/~madang/>

#### ■「ならサンウリム 2008」

「多文化共生の集い」

日時：11月2日(日) 10:00～15:00【入場無料】

会場：奈良県解放センター(奈良市大安寺1-23-1)

主催：ならサンウリム実行委員会

<http://forumnara.web.fc2.com/>

■第11回「あつまろか東はりまマダン」

日時：11月2日(土) 11:00～15:00【入場無料】

会場：高砂市松波町・ユアアイトウン緑道公園(雨天高砂小学校)

主催：東はりまマダン実行委員会 079-447-4021(伊藤真史さん)

■「四天王寺ワッソ」

「友情は1400年の彼方から」

日時：11月2日(日) 10:30～17:00【入場無料】

会場：史跡難波之宮跡公園(地下鉄谷町線「谷町四丁目駅」下車)

主催：四天王寺ワッソ実行委員会

<http://www.wasso.net/index.html>

■第13回「東大阪国際交流フェスティバル」

「わたしのまちはアジアのまち わたしのまちは世界のまち」

日時：11月3日(月・休) 10:00～16:00【入場無料】

会場：三ノ瀬公園(近鉄奈良線「布施駅」下車南へ)

主催：NPO 東大阪国際共生ネットワーク・東大阪国際交流フェスティバル実行委員会

<http://www.e-sora.net/kokusaiaks/>

■第17回「民族文化にふれる集い」

「豊かな文化との出会いと交流」

日時：11月8日(日) 13:30～【入場無料】

会場：京都会館第二ホール

主催：京都市小学校外国人教育研究会・京都市立中学校教育研究会外国人教育部会・京都市教育委員会

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000005832.html>

■第13回「伊丹マダン」

「出会いの広場」

日時：11月9日(日) 10:30～オープニングパレード

11:00～15:00 舞台【入場無料】

会場：伊丹市立伊丹小学校校庭(阪急伊丹線「伊丹駅」下車)

主催：伊丹マダン実行委員会事務局(伊丹市国際平和担当内)・伊丹市 [http://www.city.itami.lg.jp/home/SHIMIN/KOKUSAIHEIWA/\\_9339.html](http://www.city.itami.lg.jp/home/SHIMIN/KOKUSAIHEIWA/_9339.html)

■第4回「ゆにかる祭」(united cultures festival)  
⇒2009年不開催

「言葉や国籍をこえて、さまざまな文化をもつ人びとが、自分自身を発信し、人と人とのつながりや共感が生まれる場を創ることを目的として多様な背景を持つ青少年が中心になって企画・運営しています。」

日時：11月9日(日) 10:00～17:00【入場無料】

会場：岡崎公園(京都市左京区、平安神宮前)

主催：(特活) 多文化共生センター・きょうと 075-353-7205

<http://www.tabunka-kyoto.org/>

■第9回「ナンジャン」

「すみよい すみよし みんなのまつり」

日時：11月9日(日) 10:00～15:00【入場無料】

会場：白頭学院グランド(JR 阪和線「杉本町駅」下車)

主催：建国高校内「ナンジャン実行委員会」06-6691-1231

<http://www.keonguk.ac.jp/>

■2008年「チョアヨ! コリアタウン共生まつり」

「遊んで! 食べて! つながろう!」

日時：11月9日(日) 11:00～16:00【入場無料】

会場：御幸通商店街一帯(JR 環状線「桃谷駅」下車東へ)

主催：御幸通中央商店会 <http://www.ikuno-koreatown.com>

■第10回「朝鮮文化とふれあうつどい フリーマーケット in 府中公園」

「在日朝鮮・韓国の人々への差別と迫害を許さず、人間としての良心を失わないために。」

日時：11月9日(日) 10:30～15:00【入場無料】

会場：府中公園(京王線「府中駅」下車)

主催：チマ・チョゴリ友の会(松野哲二さん 03-3321-6677)

■第27回「民族フェスティバルウリカラゲモイム」(「ヒューマンフェスタ2008」内)

日時：11月15日(土) 10:30～、13:30～

会場：八尾市文化会館(近鉄大阪線「八尾駅」下車)

主催：第27回「ウリカラゲモイム」実行委員会

■「サクラモト プンムルノリ」

日時：11月16日(日)【入場無料】

会場：桜本商店街(JR「川崎駅」下車)

川崎ふれあい館開設20周年記念事業「コリアンな街」プロジェクト

主催：川崎ふれあい館

<http://www.seiky-sha.com/fureaikan/index.html>

### ■第9回「ひらかた多文化フェスティバル」

日時：11月22日（土）11:00～15:30【入場無料】

会場：岡東中央公園（京阪本線「枚方市駅」下車）

主催：ひらかた多文化フェスティバル実行委員会・（財）枚方市文化国際財団

<http://www.city.hirakata.osaka.jp/freepage/bunkoku/>

### ■大阪朝鮮高級学校「朝高祝典－2008－」

日時：11月23日（日）【入場無料】

会場：大阪朝鮮高級学校（近鉄けいはんな線「吉田駅」・近鉄奈良線「河内花園駅」下車）

主催：大阪朝鮮高級学校 <http://www.osakakhs.com/>

### ■「川崎同胞メアリマダン2008」

日時：11月29日（日）18:00～

【入場料：12000円・夫婦22000円・70歳以上10000円】

会場：川崎 BE カメラアホール（JR「川崎」駅東口）

主催：「川崎同胞メアリマダン2008」実行委員会

### ■「『国際教育』推進のための多文化フェスティバル2008」

日時：12月6日（日）10:00～15:00【入場無料】

会場：とよなか国際交流センター（阪急宝塚線「豊中駅」下車）

主催：（財）とよなか国際交流協会

<http://www.tcct.zaq.ne.jp/toyonakakokuryu/index2.html>

### ■第11回「神戸オリニマダン」

「コリアンの子らの民族文化披露とすべての子どもたちの韓国朝鮮との豊かな出会いを目的」

日時：12月7日（日）10:00～15:00【入場無料】

会場：神戸市立真陽小学校（JR・市営地下鉄「新長田駅」下車）

主催：神戸在日コリアン保護者の会（090-3671-1370）

### ■第30回「ウリ高校奨学生文化祭」

日時：12月20日（土）13:00～17:00【入場無料】

会場：メルパルクホール（JR・地下鉄御堂筋線「新大阪駅」下車）

主催：第30回ウリ高校奨学生文化祭実行委員会

（財）朝鮮奨学会 <http://www.korean-s-f.or.jp/>

## 「民族まつり/マダン」関連文献

発行年順（新聞紹介記事等は省略した）

### 《研究論文》

江口信清（1994）「民族の祭りとエスニック・アイデンティティの高揚—朝鮮・韓国人による生野民族文化祭の事例」井上忠司・祖田修・福井勝義編『文化の地平線—人類学からの挑戦—』世界思想社

江口信清（1995）『地域における在日朝鮮・韓国人の祭りとエスニック・アイデンティティの強化に関する研究』（1993・94年度科学研究費補助金（一般研究（C））研究成果報告書）

飯田剛史（2002）「在日コリアンの祭りと「民族」—民族文化運動の自己組織化—」飯田剛史『在日コリアンの宗教と祭り—民族と宗教の社会学—』世界思想社

小川伸彦（2003）「民族まつりへのアプローチ—京都・東九条マダン研究序説—」『奈良女子大学社会学論集』第10号

片岡千代子（2004）「祝祭と運動の2項対立を超えて—京都『東九条マダン』にみる『あいまい』さについての考察—」京都文教大学大学院文化人類学研究科提出修士論文（未刊行）

飯田剛史（2004い）「在日コリアンの「祭り」形成と公共化」京都大学大学院文学研究科21世紀COEプログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」『人文知の新たな総合に向けて 第二回報告書Ⅲ〔哲学篇2〕』

[http://www.hmn.bun.kyoto-u.ac.jp/report/2-pdf/3\\_tetsugaku2/3\\_03.pdf](http://www.hmn.bun.kyoto-u.ac.jp/report/2-pdf/3_tetsugaku2/3_03.pdf)

小川伸彦（2004）「民族まつりへのアプローチ—京都・東九条マダン研究序説—」

飯田剛史（2004ろ）「在日コリアンの「祭り」形成と地域共生への一考察」

以上2点は飯田剛史『在日コリアンの社会的ネットワークと文化動態に関する比較社会学的研究』（文部省科学研究費国際学術報告書1995年—97年度 課題番号07044035）

城田愛（2004）「オキナワンの踊りと音楽にみるハワイ社会—エスニシティの交差する舞台から—」後藤明ほか編『ハワイ研究への招待—フィールドワークから見える新しいハワイ象—』関西学院大学出版会

- 生田周二〔研究代表者〕(2005)『人権教育の日本的性格と展望に関する研究』(課題番号 14510284) 2002年度-2004年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書)
- 飯田剛史(2006い)「関西における民族祭り地域共生の展開—2005年度調査ノート—」『北東アジアの環境・社会・地域経済に関する共生課題の研究』(富山大学教育研究特別経費プロジェクト報告書 2005年度)
- 飯田剛史(2006ろ)「在日コリアンと大阪文化—民族祭りの展開—」『フォーラム現代社会学』第5号、関西社会学会
- 片岡千代子(2006)「京都「九条マダン」の中心的担い手についての考察」『東アジア研究』第45号、大阪経済法科大学アジア研究所
- 稲津秀樹(2006)「在日韓国・朝鮮人運動のカルチュラル・ターン—生野民族文化祭における〈民族〉と〈楽しさ〉—」  
[http://library.kwansei.ac.jp/profile/jc06\\_02.pdf](http://library.kwansei.ac.jp/profile/jc06_02.pdf)
- 飯田剛史(2007)「日本における多文化共生のゆくえ—民族祭りの視点から—」芦名定道編『多元的世界における寛容と公共性—東アジアの視点から—』見洋書房
- 岡田浩樹(2007)「『多文化共生』とエスニックマイノリティの選択—震災後のアジアタウン構想と長田マダンの事例を通して—」朝倉敏夫・岡田浩樹編『グローバル化と韓国社会—その内と外』国立民族学博物館調査報告(Senri Ethnological Reports) 69
- 稲津秀樹(2008)「『民族まつり・マダン』からの/への手紙」電通育英会大学院奨学生『研究報告集』第1号
- 김형선 [金賢仙](2008)「제일 코리안의 축제와 민족 정체성」(在日コリアンの祝祭と民族の正体性)『日本研究論叢』第26号(聖公会大学校)(朝鮮語)
- 吉田正純(2008)「多文化共生と『ローカル・ノレッジ』—京都における在日コリアン地域活動を事例に—」日本社会教育学年報編集委員会編『日本の社会教育』第52集、東洋館出版社
- 申英根(2009)「地域活性化政策による伝統的祭りの変容と地域社会—大韓民国江原道江陵市の「江陵端午祭」を事例として—」『地理科学』vol.64 no.2
- 徐淵昊(2009)「民俗祝祭文化と現代韓国社会」松岡正剛・池明観・小倉和夫著・小倉紀蔵・金容雲監修(2008)『お祭りと祝祭が会おうとき—日韓のまつり文化を比較して—』アドニス書房
- 《単行本・エッセイ・記事・その他》
- 沈雨晟(1978)『沈雨晟評論集 민속문화와 민중의식』對話新書 對話出版社(朝鮮語)
- 梁民基(1981)『仮面劇とマダン劇』晶文社
- 飯沼二郎(1985)「生野民族文化祭」『朝鮮人—大村収容所を廃止するために—』No.23、朝鮮人社金徳煥(1985)「民族のマダン(広場)—生野民族文化祭」『月刊社会教育』29-8、国土社
- 金徳煥(1987)「在日同胞の歩みと現状—大阪・生野民族文化祭を中心に—」『歴史批評』第5号、歴史批評発刊会
- 太田順一(1987)『女たちの猪飼野』晶文社〔生野民族文化祭関連〕
- 金徳煥(1987)「生野民族文化祭の五年間を振り返って」『行人恩家』2号、行人会
- 金学鉉(1987)「韓国・朝鮮人の文化創造を考える」徐龍達編『韓国・朝鮮人の現状と将来—「人権先進国・日本」への提言—』社会評論社
- 「特集：在日同胞文化の創造をめざして」(第3回在日同胞の明日に向かう文化祭)(1987)『우리생활(ウリ生活)』第2号、在日同胞の生活を考える会(仮称)
- 許南英(1988)「猪飼野」許南英『族譜 日本のなかの朝鮮』平凡社〔生野民族文化祭写真〕
- 梁民基(1988)「いま、なにが起こっているか」
- 金迅野(1988)「生野民族文化祭ルポ 部署を捨てる」  
以上2点は『季刊在日芸民』2号(特集：民衆文化運動の現在)、民涛社発行、影書房発売
- 金徳煥氏の外登法裁判を支援する会(1990)『イギョラ！ トッカンさんの指紋裁判』(生野民族文化祭関連)新幹社
- 金徳煥(写真/太田順一)(1992)「新・猪飼野事情④ 生野民族文化祭 その一」『済州島』第5号、耽羅研究会
- 金徳煥(1992)「生野民族文化祭の音と共に生きる」『礼拝と音楽』73、日本キリスト教団出版局

白井美由紀 (1993) 「『在日』問題を考えるきっかけ作り  
 みのおセッパラム (大阪・箕面市)』『KOREA  
 TODAY』4月号、アジアニュースセンター  
 金徳煥・鄭甲寿・権誠治・鄭真佐美・寺元耕二・朴 実  
 (1993) 「未来に何を創造できるか?」  
 『季刊 Sai』編集部 (1993) 「『みのおセッパラム—新しい  
 風を、感じることから、知ることから。ここ  
 ろにええよう!』を開いた箕面市人権啓発推進  
 協議会」(自治体ナウ7)  
 以上2点は『季刊 Sai』vol.7 (特集: 在日の  
 文化をつくる)  
 崔忠植 (1993) 「東九条マダン (広場) - 民族文化の創  
 造を-」全朝教京都『在日のいま- 京都発-』  
 呉崙柄・金秀一・朴康秀・崔忠植・金徳煥・権誠治(1994)「全  
 国津々浦々 同胞のすむ街と民族まつり 新春特  
 集 担い手座談会」『統一日報』1994年1月1日  
 付け  
 李榮汝 (1994) 「『在日』のアイデンティティ」(人権ぶっ  
 くれっと33) [生野民族文化祭関連] 枚方市・  
 枚方市教育委員会  
 牧田清 (1995) 『街が消えた』遊タイム出版 (長田マダ  
 ン関連)  
 沈雨晟 (1995) 『民俗文化と民衆』(梁民基編著・李京叡  
 ほか訳) 行路社  
 朴 一・仲原良二・鄭早苗・金英達・藤井幸之助編 (1995)  
 『全国自治体在日外国人教育方針・指針集成』  
 明石書店  
 「今、在日の祭りが面白い」『セスリ』No.21 (1995)  
 藤井幸之助 (1995) 「チョゴリに吹き込む新しい風—み  
 のおセッパラム チョゴリを描こう絵画展の試  
 みから—」『月刊染織 a』No.171、1995年6月  
 号  
 セレブレーションコンサート '94 実行委員会企画・趙博・  
 堰守・奥村宗久編集 (1995) 『ニッポンって何  
 やねん?』(CD BOOK) 東方出版  
 梶川望 (1995) 「すばらしい出会いを祭りに託して」全  
 朝教編『これからの在日朝鮮人教育'95』[なら  
 サウンリム関連]  
 太田順一 (1996) 『大阪ウチナ—ンチュ』ブレ—ンセン  
 タ—  
 金徳煥 (1996) 「大阪生野からのメッセージ—生野民族  
 文化祭がめざすもの」『クルパン』21号、現代

#### 語学塾

「座談会『それぞれのマダン』長田マダン実行委員会の  
 七人が語ったそれぞれのマダンと自分史と…」  
 『「神戸から」1・17市民通信』no.11 (1996)  
 上田正昭 (1997) 「四天王寺ワツソと難波の再生」上田  
 正昭『東アジアと海上の道—古代史の視座—』  
 明石書店  
 白井美由紀 (1999) 「楽しく、有意義な21世紀のマダン  
 を考える「全国マダン会議」開催」『KOREA  
 TODAY』5月号、アジアニュースセンター  
 朴 実 (1999) 「やっと出会えてよかったね」全朝教編『こ  
 れからの在日朝鮮人教育'99』[東九条マダン関  
 連]  
 太田順一 (2005) 「ふたつの異文化」太田順一『はくは  
 写真家になる!』岩波ジュニア新書 [生野民族  
 文化祭関連]  
 ふれあい芦屋マダン2005実行委員会編 (2005) 『阪神・  
 淡路大震災10周年記念事業—ふれあい芦屋マ  
 ダン2005報告集 ひと・まち・マダン・芦屋—  
 多文化共生のまちづくり—』ふれあい芦屋マダ  
 ン2005実行委員会  
 鄭甲寿 (2005) 『〈ワンコリア〉風雲録—在日コリアンた  
 ちの挑戦—』岩波ブックレット  
 金真須美 (2005) 『羅聖(ナソソ)の空』草風館  
 箕面市 (2006) 『第2期箕面市国際化推進計画—互いに  
 認めあい、だれもが住みやすいまち「みのお」  
 をめざして—』  
[http://www2.city.minoh.osaka.jp/BUNKOKU/  
 KOKUSAI/dai2kikeikaku\\_saishuban.pdf](http://www2.city.minoh.osaka.jp/BUNKOKU/KOKUSAI/dai2kikeikaku_saishuban.pdf)  
 二階堂裕子 (2007) 『民族関係と地域福祉の都市社会学』  
 世界思想社  
 朴 実 (2007) 「東九条 いま むかし—東九条マダンに託  
 す願い—」『2006年度講演録 講座・人権ゆかり  
 の地をたずねて』世界人権問題研究センター  
 松岡正剛・池明観・小倉和夫著・小倉紀蔵・金谷雲監修  
 (2008) 『お祭りと祝祭が出会うとき—日韓のま  
 つり文化を比較して—』アドニス書房  
 稲津秀樹 (2008) 『「マダン」へ行こう! 『マダン』で会  
 おう! —在日コリアンの文化政治の展開とその  
 ジレンマ』鶴本花織・西山哲郎・松宮朝編『ト  
 ヨティズムを生きる 名古屋発カルチュラル・  
 スタディーズ』せりか書房